

明治四十三年度

悲喜交々至れる感想

今日、我が國民性と關係の深い櫻花が丁度盛りで、天地が最も新しい生命を發揮して居る時に當りまして、殆ど全國から態々勉學の爲に此處に御集りになりました多數の新人學者を迎へて、本校第十年第一學期の業を始めますのは、一同の深く喜ぶ所であります。

私は毎年此の櫻花を見る毎に、我が國の婦人の運命を思はざるを得ないのです。我が國の婦人は、實に立派な潛勢力を備へて居乍ら、種々の障害の爲に未だ其の力を顯はす事が出来なかつたのである。今から廿年前、私が新潟に女學校を起した頃は、御婦人が學問の爲に地方から新潟まで出掛けると云ふ事は實に容易でない。愈々入學となると多くの供を連れ、箆筒、長持等を持つて非常な決心で來たので、其の頃は女子が學問の爲に郷里を離れ、遊學する等と云ふ事は非常に突飛な行爲として、郷黨の誇りを招いた位でありました。

夫れで大抵の親は子供の志を抑へて、其の目的を遂げさせなかつたのである。其の爲に種々氣の毒な事が起りました。或娘の如きは、三人姉妹の様にして居りまして、一人は私の立て、

居りました新潟の女學校へ、一人は師範へ這入り度いと思ひ、

二年間も熱心に親に懇願しましたが、どうしても許されぬ。

そこで此の上進む事が出来ないならば生きて居る甲斐はないと

考へ、非常な決心を以て今度は冒險的に入學願書を密かに出しました。

所が入學許可の通知が親の所へ届いたので両親は大いに驚き、深く其の不心得を誡めました。娘は一言もなく頭を垂

れて聞いて居りましたが、夫れから二階へ上つて自殺して仕舞

ひました。もう一人は兄は帝國大學に居つたので、兄の歸省を

待ち、兄から頼んで貰はうとした所が、兄も女に學問などは入

らぬと云つて取り合つて呉れない。そこで失望の餘り之も自殺

して仕舞ひました。爾う云ふ事があつて後、三人の中の一人丈

けが漸く教育を受ける事を許されたのであります。

然るに廿年後の今日は、女子教育に對して非常な反動が起つ

て居るにも拘らず、三百三十餘人の方々が、全國から笈を負う

て、此處にお集りになつたので、實に今昔の感に堪へぬのであ

ります。

斯く過去の有様に比較して考へますと、我が國の女子教育は

非常に進歩した様であります。然し今日でも輿論は随分保守

に傾いて居ります。殊に一昨年來經濟の方の關係からと、もう

一つは保守の思想が勢力を得る様になりました爲に、女子教育

に對して一つの反動が起り、折角盛んにならうとした氣運を、大いに阻害した事は事實であります。故に皆さんも入學なさる迄には、種々の困難があつたであらうと云ふ事を、御察しする事が出来るのであります。私はどうか皆さんが早く本校の真相が御解りになり、折角志を遂げ立派な婦人となられん事を切望するのであります。

本校の卒業生と雖も却々完全な人はない。又千人餘の卒業生の中には、どうも誠に心配になる様な人がある事もあるが之は例外である。斯く一、二の例外を例として女子教育を否認する事は出来ないのであります。然るに此の頃になつては、卒業生或は在學生の父兄の方から、面會の折に、又は手紙を以て、卒業後の有様を見て非常に満足され、感謝の意を表せらるゝ事が度々あります。之は一例でありますが、今年の卒業生の中野とみ子と云ふ方の嚴父から、斯う云ふ事を申して來られました。一寸一部分を讀みませう。

實は會てとみを御校へ入學致させ候は、色々と學校の選擇に苦心致し候末に御座候が、其の節は貴校も御創立後未だ日猶淺く候ひし爲、誠に遠隔なる當市に於ては、風評區々として充分眞を知るもの無之、従つて選定は致し候ものゝ、猶多少の不安なき能はず候ひし、然も一般東都學生界の風潮は、漸

時華美に流れて、轉た寒心すべきもの有之由聞及び候へば誠に東都遊學の危險を思ひ申候。

茲に於て小生一策を案出致し、先づ經濟上の制限を致し、其の範圍内にて一方には出來得る限り節約を爲し、質素に生活せしむると同時に、他方には勉めて有益に修業の資に當てしめ、然して若し餘分を生じ候節は、御校へ寄附致す可き様相
定め申候（中略）

其の後漸々御校の御様子を知悉致し候が、實に諸先生の御熱心にして且御懇篤なる御教訓は、善良なる御校風にも表れ、往日の不安は全く湮滅致し候のみならず、事々物々只感歡の外無之候。然して娘の行動に就いても、終始密に窺ひ居り候へども、誠に能く兼ての申附を守り、務めて質素に勉學致し呉れ候。然して終に今日に至り候は、諸先生の御薰陶と美しき御教風の感化の然らしむる所にして、拙者親子の幸福何物かこれに過ぎず候。（以下略）

斯う云ふ手紙に添へて、學資金豫算の残りを卒業生の團體なる櫻楓會へ寄附せられたのであります。

或人は本校へ來ると何とも云はれない良い感じがする、と云ふ事を度々聞きますが、之は第一に本校創立の歴史が然らしむるのみならず、本校關係者、教職員、その他本校の爲に種々の

方面から盡して居られる方々の感化に依る事で、之が本校々風の生命であります。

今日私は櫻花が咲き揃ひ、天も地も喜びに満ちて居る時に皆さんを迎へて、誠に喜ばしく思ふと同時に、一方には悲しみに堪へぬ事があります。夫れは前から御居になつた方は御存知でせうが、本校創立の始めから、深大なる同情を以て賛成の意を表せられ、種々女子高等教育の爲に御盡力になり、現に本校の評議員となつて居られました宮内大臣岩倉公爵薨去の事であります。公爵には、私は丁度此の頃病氣に罹りましたが、其の前に御目にかゝりました。其の時我が國家の爲、又女子教育の爲に種々意見を吐露致し、公爵の御考も色々伺つたのであります。公爵は御年は六十で御座いますが、事業から云へば遠大な拘負を以て、將に大いになすあらんとし、事業に着手せられた計りである。我々は素より、官民は皆等しく公爵の人格に信頼し、其の成功を希つて居つた時に卒然薨去せられたので、實に痛惜に堪へぬ事であります。殊に私は公爵の御計畫を思ひ、本校との關係を思うて實に哀惜の情を禁ずる事が出来ぬのであります。

もう一つ茲に悲しむべき事は、本校家政部第二部生で、殊に體育係として熱心に働かれた小澤すゝ子が死去なされた事であ

ります。小澤さんが私にお出しになつた實踐倫理の答には、何卒自分は益々熱心になり度い、熱心があれば何事も出来ぬ事はない、火も水も熱心を變へる事は出来ない。今年私は何卒此の一つの動かすべからざる確な精神を以て有効に暮したい、と云ふ事が委しく書いてあります。又今年の體育係の計畫に就いても、既に腹案を立て、今年は大いに學問に於ても、修養に於ても進まうとして希望に満ちて居られましたのに、不幸にして病魔の犯す所となり、夭折されましたのは實に惜しむべき事であります。

斯くの如く逝ける人は再び歸る事は出来ません。然しながら其の人の意志、其の人の精神は我々の中に生きて居るのである。故に我々が益々一致團結して本校の校風を進め、其の意志を此の世に實現致しましたならば、公爵も大いに満足せられ、小澤すゝ子も喜んで瞑する事が出来るであらうと思ひます。

今日私は此の大なる喜びと、深い悲しみの情を表して、今後益々皆さんが一致協同して此の期の業を有効に學ばれん事を希望致すのであります。

〔花紅葉〕第八號・第一學期始業式講話 明治四十三年四月

我が教育界を襲ひたる大反動と

女子教育の前途

本校創立第九回の記念式を行ふに當りまして、一同此の講堂に集り、過去の事實を想ひ起し、將來の希望を益々明らかとする事が出来るのは、誠に幸福な事であります。

殊に今日は此の女子大學最初の發企人である廣岡夫人、及び本校の創立當時衆論の八ヶ間敷かつた時に大いに助力を與へられた時の外務大臣大隅伯爵、始めて委員會を開いて本大學設立の議を確定し、大阪の有力者を集めて女子高等教育に就いての會を開きました時に多大の同情を以て態々出席され、贊成演説をせられた、時の宮内大臣土方伯爵、又此の大學の土臺を此處に据ゑる様に、地の利を與へられた三井三郎助君御夫妻、教育界に於て、殊に多大の同情を寄せられた只今の東京高等師範學校校長嘉納治五郎先生、東京女子高等師範學校長中川謙二郎先生が、丁度揃つて、此の記念式に御出席下さいました事は、我々一同の深く喜ぶ所であります。

十年前此の女子大學を起すに當つて最も困難を感じたのは、輿論を喚起する事でありました。本校の創立が企てられた時即

ち今から十四、五年前は丁度明治四、五年頃から盛んになりかけた女子教育が大いなる反動に遇ひ挫折を來して居つた時機でありました。此の以前私が關係した大阪梅花女學校の如き、其の盛んなる時は五百人程の生徒がりましたが、此の反動を受けた時には百人内外に減りました。又平野教諭に聞きますと、彼の有名な古きフェリス女學校等でも、反動時代は生徒が廿四、五人になり、生徒の方が先生の人数より少くなつて仕舞つた事があると云ふ位で、獨り女子高等教育不必要論が唱導されたのみでなく、中等の教育を女子に與へる事すらも輿論は反對であつたので、従つて其の程度の學校すら誠に微々たるものであつたのです。

斯くの如き時に於て、茲に女子の高等教育を起すなど云ふ事には、殆ど耳を傾ける人も少く、進んで此の事業に一臂の力を貸さるゝ有力者を得るのは實に困難でありました。此處に御列席の諸君は立所に御賛成下さつたのであるが、多くは一度や二度で賛成する方は殆どない。御百度参りをしなければならなかつたのであります。然るに熱心なる發企人諸君の御盡力に依つて、追々贊成者も出來、遂には贊助員となつて何かの助力を與へんとせられた方が七百餘名に達し、創立委員として盡力せられた方が殆ど百名、其の中から廿三人の評議員が選ばれる様に

なりました。

然し茲に直ちに女子大學を起すのは、未だ何れの點に於ても準備が不充分でありましたが、夫れにも拘らず時機が段々迫つて來た爲に、斷然開校式を擧げなければならぬ運びになつたのであります。そこで今迄の九年間は、一方に創立事業の進捗を計ると共に、一方には教育の任に當り、内外多事複雑であつて、殆ど全力を傾注するも尙足らざるを覺ゆる如き状態でありました爲、此の大學の創立に同情を寄せられ、賛成を與へられた方々に充分其の成行きを御報告する事も出來ず、心ならずも今日に至つた次第であります。然るに寛大なる多數の賛助員諸君が益々此の學校を御助け下さると云ふ事は、實に感謝に堪へない所で、來らんとする十年紀には詳しい報告書を作り、出來る丈け多くの賛助員諸氏の御出席を願ひまして、有力なる補助を與へられた其の功勞に酬ゆる事は出來ませんが、深く誠意を表し度いと考へて居るのであります。

獨り報告書を以て御答へする計りでなく、今日迄の十年間に於ける女子高等教育の結果を實際に現し、過去の努力の實を結んで、我々は幾分か諸君の同情と熱心に酬いなければならぬ。本校は今年第七回卒業生を出し、第一回卒業生から數へると總て一、千十九名に上つて居る。附屬高等女學校からは七百餘名

の卒業生を出し、現に千幾百名の在學生を有して居るのである。女子高等教育の結果は實に此の卒業生及び在學生の品性に、其の信仰に、其の實行に、實力に現れなければならぬ。過去の努力を實らせ、來らんとする十年祭の祭壇に上するものは、實に卒業生並びにあなた方、在學生の責任であります。願はくば此の意味深き記念日に於て、明年の十年紀に如何なる報告を差し出さうかと云ふ事に就いて、茲に深くあなた方が御考へになる事を希望し、大いに此の決心を固くせられん事を望むのであります。

今後本校は、一方に於ては女子大學の身體を永久に維持するに缺くべからざる基金の充實を計り、大いに教育の改善進歩を促すと共に、又一方には我々が過去九年間、生命として育て、來ました校風の成長を計り、只今遭遇して居る所の困難と闘つて、之に打ち勝たなければならぬ。夫れには創立以來熱心に御助け下さつた所の、創立委員、評議員諸君、及び本校教職員、卒業生、生徒全體の一致協力に依つて、どうか此の大責任を全うしたいものであると深く希望すると共に、私は諸君が必ず之に就いて深く御考へ下さるであらうと云ふ事を信じて疑はないのであります。

今日遭遇して居る難關を切り抜ける事は實に困難であるが、

其の中でも最も困難であらうと思はれるのは、今日我が社會に起つて居る、女子教育に對する反動に打ち勝ち、健全なる輿論を作ると云ふ事であります。我が國の女子教育、明治以來の婦人進歩の跡を考へても、幾度か高潮に達せんとして幾度か反動に妨げられ、或時は興り、或時は衰へて今日に至つたのであります。就中十餘年前に起つた反動は、女子教育の發達に非常なる打撃を與へたのであります。然るに潮流は漸次又回復して有力なる學者、政治家、教育家・實業家等の贊助に依り、茲に女子高等教育の學府は創立され、普通教育程度の女學校も十年前には僅々十數校であつたのが、此の間に百七十校、即ち十倍以上の數に上り、女子の高等教育、其の他の専門教育も此の十年間に發達して來たのであります。

然るに此の三年前から萌した經濟界の窮迫、人心の萎縮、輿論の反對等に原因して、茲に女子教育に對する、第二の大反動が起り、獨り女子教育のみならず、男子の教育すらも其の影響を蒙つたのである。然るに本校に於ては、今年は家政學部に九十八人、文學部に三十人、英文學部に十五人、普通豫科に六十人、附屬高等女學校に百餘人、合せて三百三十人餘の人達が全國から笈を負うて此の學府に御集りになつたのであります。之等の入學者は何れも漫然と輿論に動かされて這入つて來たもの

ではない。全國及び海外に散布せる本校卒業生の實際を親しく見、或は本校の關係者其の他本校の事情に通ぜる人々の紹介に依つて、充分研究選擇を遂げた上、一つの決心を以て或は輿論の反對、知己友人の反對等があつても、之に打ち勝つて入學したのである。之に依つても私は此の女子高等教育の根柢は、案外に深いと云ふ事が解るのであります。如何に輿論が一時的の變調を示し、本校に就いての誤解が流布される様な事があつても、七百人の賛助員、評議員、創立委員諸君、千十九名の卒業生は眞に女子高等教育の必要を認め、本校を眞に知つて益々力を注いで下さるのである。そこで輿論が反對に傾いて居る時に於ても、之丈けの學生がお集りになつたと云ふ事でありませぬ。故に今日反動に遭つて多少の打撃は蒙るとも、此の女子教育には矢張り地中に潜める有力なる根柢があると云ふ事を信ずる事が出来るのであります。

第二に此の反動は恐るべきものであるが、畢竟一時的の現象に過ぎない。今後益々興らんとする女子教育を、人力を以て抑制せんとするも到底不可能である。如何となれば女子教育の進歩、女子高等教育の興隆は今や世界の大勢となつて居る。然るに我が國が獨り、何時迄も世界の大勢に逆行する事は到底出來ないのであります。

從來我が國は武を以て世界に力を認められた國であるが、今後は武力のみを以て國家の體面を維持する事は出来ない。又今日最も我國を苦しめて居るものは經濟難でありますから、之を切り抜けて眞に世界の商工業の競争裡に立ち、勇ましく奮闘しなければならぬのであります。之は深く考へるならば、只物質的の進歩改良のみに依つて能くなし得られるゝ事ではない。もう一つ深い精神的の根柢がなければ、經濟の方面に於て打ち勝つ事も出来ないのである。此の精神が出来なければ世界と共に進み、宇内の大勢を支配する事は出来ない。我が國は體面を維持する事も出来ないのであります。今後此の國民の母となり、此の家庭を司る主婦となる女子が、大いに實力を養ひ、深い精神に觸れて居らなければならぬと云ふ事は、申す迄もない事でありませう。我々は將來日本を思うては、一日も女子教育を忽せにする事が出来ないのです。今日は一時の反動を恐れて躊躇すべき時ではない。之に打ち勝つて進まなければならぬのであります。

第三に此の日本は、天から一つの天職を受けて居る。平易に云へば我が國には天祐とも云ふべきものがあつて、東洋に於て或事を果さなければならぬ天職を擔つて居ると云ふ事で、私は種々の事實に依つて深く之を信ぜざるを得ないのであります。

二、三日前私は大隅伯を御訪ね致しました所が、丁度其の日は伯爵が編纂せられた國民讀本の御披露の爲宮内大臣、文部大臣及び各府縣知事を御招待になつて居られました。私は夫れを知らずに参つたのでありますが、伯爵は最初に御出でになつた御歌所長高崎正風男を迎へ、親しく其の肩に手を置いて、私は我が國民を教育する父であり、此の成瀬君は國民を教育する母である。女子教育と男子の教育は、車の兩輪の如きもので並び進まなければならぬものである、と申されました。此の國民讀本の中に今申した日本の天職に就いての條がありますが、其處に擧げられてある御製を拜讀致しても、之を確める事が出来るのであります。

さためにし其のはしめより葦原の

國の榮えは神そまらむ

我が國の歴史を考へるならば、此の國民は危急の場合には非常な力が出る、大いに決心するならば世界を驚かす程の偉力を現す事が出来ると云ふ事を信じ得るのであります。

我々は我が國女子教育の將來を思ひ、我々の微力を顧みれば、誠に縣念に堪へないのであるが、私は矢張り之には天祐と云ふ様なものがあつて、それに助けられるであらうと云ふ事を信ずるのであります。私共の今日遭遇して居る困難に打ち勝つ

には、今後益々一致協力して進み、人力を盡して天祐を待つより外はないのであります。

願はくば皆さんの一致協力を依りまして、我々の負うて居る一大責任を全うせん事を、私は此の記念日に於きまして深く希望致すのであります。

〔花紅葉〕第八號・第九回創立記念式）明治四十三年四月

女子教育の過去及將來

過去の女子教育

我が國に女子教育の開け初めたのは、明治七年頃の事であつて、子が女子教育に従事したのは明治十年からである。故に予は親しく女子教育の盛衰を目撃して來たのみならず、共に其の中に浮沈し來つたのである。

振り返つて見るに、女子教育の過去は、大波小波の連続である。明治七年頃から動き初めた女子教育の波は、二十年前後に至つて驚くべき高潮に達し、廿三年頃から二十七八年即ち日清戦争時代までは漸次引汐になり、三十年前後には遂に最低に達した。子が女子大學設立の準備をしたのは此の時代である。婦

女新聞の創刊されたのも、矢張この沈衰時期の末であつたといつて可らうと思ふ。それから又だん／＼上げ汐になつて來て、四十年前後には二度目の高潮に達し、一昨年頃から又少しく引汐の状態になつて來た。

子が大阪に創立した梅花女學校の如き、高潮の時は生徒數五百名に達し、引汐の時は僅に百名を超えなかつた。横濱のフェリス女學校の如き、生徒數二十四名に下つて、教員數と相半する如き状態にまで立至つたといふ事である。是は常に二三の私立校に止まらないで、各公立女學校を通じての影響である。

明治三十年前後には、公立の女學校は僅に十二三校に過ぎず、三十二年高等女學校令が發布せられて、各府縣必ず一校づゝ設置しなければならぬ事になつたけれども、尙躊躇して容易に其の設置を見なんだが、今日は、其の校數が十數倍し、生徒の數は、校數よりも以上の増加率を以て増して來て居る。高等教育の我が女子大學の如きも、盛な時は收容しきれなかつた。

それで、女子教育に斯る盛衰浮沈があり、今又一昨年頃から少しく引汐加減になつて來たのを見て、我が女子教育には眞の根柢がない、其の盛であつた時は單に流行的現象に過ぎなかつたのであらうと解釋する人もあるが、予は之を首肯せぬ。論よ

り證據本年の如きは、世論は盛に女子遊學を止め、殊に經濟上の大なる壓迫があつたにも關らず、我が女子大學には三百三十名の新人學生があつた。それで、世の風潮に動かされ、流行に支配せられて、無意味に女學校へ入學させる様な父兄は漸次に減じ來つて居るから、今日の女學生の数は數年前より減じて居るかも知れぬが、眞に教育の必要を認めて居る堅實なる分子は反つて増加したといつて可からうと思ふ。兎も角、大波小波はあるけれども、我が女子教育は、昨年よりも今年、今年よりも來年と、年々進歩しつゝある事は確である。従つて、根柢なき發達といふ事は出來ぬ。強き根があり、固き基礎の上に立つて居る事が斷言して憚らない所である。

將來の女子教育

過去の女子教育が、外部に於て大波小波を起しつゝも、實質に於ては着々進歩を遂げて居る迹を考へて見て、將來の女子教育も必ず同じ歩調を以て遂に大成の域に到達するであらうと確信するけれども、吾々斯界に身を措く者は、常に十分の注意を以て、其方針を誤らないやうにしなければならぬ。今回高等教育會議に諮問された高等女學校改革案、即ち家政科のみの高等女學校を設くる計畫の如き、地方では或は必要であるかも知れ

ぬ。併し、之を以て永く満足して居る事は出來ぬ。實用といふ聲が數年來特に盛であつた爲めに、裁縫とか料理とかの科が大に重んぜらるゝ事となつたが、もし之を極端に解して、すべての家庭に於ける實務を學校で練習させやうとし、其のために頭腦の教育を忽にする様な事があれば、それは大なる誤である。定つて居る事を鑄型に倣めたやうに傳授し練習して居るばかりでは、進歩もなく發達もしない。進歩なく發達なき國民國家の運命はどうなるか想像するに難くは無い。今日の學校の教授は、數學でも英語でも、悉く注人的、翻譯的、暗記的、機械的である。少しも研究的態度がない。故に發明工夫は生れて來ない。確乎たる頭腦は作られない。是は女子教育に限らない、男子教育も同じであるが、國家の將來の爲め甚だ憂ふべき事である。學制が如何に改革せられても、教育者の此の態度が變らない限りは、教育の成績をあぐる事は覺えない。

それで、最近兩三年間女子教育はやゝ下火に趣いた觀があつて、實用といふ語が極端に解釋せられ、女子は裁縫料理に通ずればそれで可いとする様な状態が見えるけれども、是は唯一時の現象に止つて、遠からず頭腦教育人格教育の必要が一般に認められるゝに至るであらうと確信する。

我國の將來

此の機會を以て、予は我が國の將來に就き一言したいと思ふ。

近頃は斯ういふ思想を抱いて居る人が多い「我が國は支那に勝ち露西亞にも勝つた。今後戦ふべきは米國であらうが、干戈に於ては負ける心配はないけれども、經濟事情に於て我は永く戰爭に堪ふる事が出来ぬ、つまり經濟の爲めに負けねばなるまい。故に商工業を盛にして大に國富を増さねばならぬ、我が國民の武勇に富力が加はれば天下に恐るべき敵國は無い」と斯ういふのである。即ち物質の充實を以て當面の急要問題と論するのである。果してさうであらうか。無論物質の充實は必要である、併し人間界は物質のみでは行かない、物質以外に精神の方面が必要である、或は思想といつても可い。宗教と名づけても可い。畢竟人間の魂である、之が物質の原動力である。此の原動力を無視して蠻勇を揮つても、決して永く他を服せしむる事は出来ぬ。今後吾々日本國民の任務は、世界的文明を扶殖する事にある。此の爲めに、世界の平和を目的として列強の仲間入をせなければならぬ、然せねば我國の地歩を進めて行く事は出来ぬ。之を度外にして、物質の充實を圖り、國民に尙武的教育

を施しても、到底ダメである。是は質に猶豫すべき問題でない。暫く躊躇して居る間に或は此の仲間はずれにならないとも限らぬ。萬一此の仲間はずれにでもなれば、我が國の將來は實に暗黒の裡に葬られなければならない。而して、此の世界的平和の仲間入するまで我國を進むるものは、商工業でない、すべての物質的事業でない、實に教育の力である。教育の中でも、特に根本的の女子教育の力である。將來世界を支配する所の大日本國民を作るには、是非共それだけの大感化力ある幾多の母が先づ出現して來なければならぬ。

日本婦人の使命

予は、日本婦人が一個の使命を帯びて居るものと自覺せんとを望む。さうして、其の使命を果すの責任があり、又果し得る運命を擔つて居ると確信する。使命とは何であるかといふに、東西の文明を調和して世界の平和に貢献するといふ事である。是は、歴史から考へても、世界の大勢から觀察しても、誤りは無い。故に、此の使命を信じ、此の信仰を以て、如何なる困難にも堪へ、如何なる障害をも排し、發奮努力して進んだならば、天は必ず之を助けて成功せしむるに相違ない。どうか我が日本婦人が、此の國家的大信仰を以て、其の使命を果さん事

を切望する次第である。

(文責記者)

〔婦女新聞〕第五百二十一號) 明治四十三年五月

金婚の賀筵にて聞きたる無聲の聲

本校及び櫻楓會と關係の深い森村さん御夫婦が、今年に御結婚後五十年に相當される爲に、御一族並に豊明會の方々、丁度子供が慈愛深き父母の天壽を歡ぶ様な眞情を以て、遙々名古屋、米國等から御集りになり、金婚の式を御擧げになりました事は、誠に稀なる御芽出度い事で、我々一同の實に喜ばしく感じて居る所であります。

先日私は御案内を戴きまして御祝ひの當日御喜びに参りましたが、昨年古稀の御祝ひをなすつた時も、其の御祝ひの會には實に眞摯の氣が滿ち、眞情が溢れて居つて、丁度其處へ参り合せて私は今日も猶忘れる事の出来ない、深い感動を受けたのであります。今度の祝宴も、親族、豊明會員、並びに之と同様に近い極々少數の方々のみを招いて心ばかりの祝ひをされると云ふ御話でありました。丁度我々一同も、何かに表して御喜びを申し度いと考へて居つた處でありましたし、其の上本校、櫻楓會と關係の深い豊明會員諸君が今度の様に多數御集りになる

好機會は中々得難い事であるから、本校も見て戴き、御喜びも申上度いと考へまして此の希望を申述べました處が、御一同が喜んで御受け下さり、皆さん御揃ひになつて御多忙の中から態々御出で下さいましたので、我々は誠に喜びに堪へぬのであります。

尚私が今日御來校を願つたのには、もう一つの意味があります。我々が豊明會の精神と本校の主義とは、根柢に於て相通するものがある事を見出しましたのは餘程以前からの事でありましたが、私は最近に於て、最も深い印象を殆ど同じ様に豊明會からと本校からと受けました。夫れは金婚式の日であります。私は其の御喜びの席に列りました時に、其處には普通の祝賀の席で見るとは出来ない實に尊い、美はしい或物が動いて居る事を感じました。

森村さんは常に、豊明會が今日あるに至つたのは、全く會員諸君のお蔭である、會員全體が己を捨て、猷身的に働かれるのに依るのである、豊明會を動かして居るのは我々ではない神である。一つの神が我々を導き、我々を動かして下さつた。私は只其の力を信じ其の力に依つて進んで來ただけであると申されました。之である。此の祝宴を支配して居つたのは此の力である。目には見えないが、髓に或る力が其處に集つた各自の心を

動かし、一同の心を一處に固く結び付けて居る。近頃森村さんは非常に御多忙であるのにも拘らず、諸々を御廻りになつて、困難な人、又は天下の志士を訪ね、衷心からの同情を以て其の志を助け、大いなる慰めを與へて居られます。即ち何事に對しても、親の如くに崇め、神と信ずる尊き一つの信念を以て、人の爲、國の爲に捧げて居られるのであります。

此の一つの精神に於て、豊明會員諸君は一つに結合し、同じ大目的に向つて力を集注し、私を捨て、唯會の爲、國家の爲に働いて居られるのである。豊明會が今日迄種々の打撃に打克つて生命ある成長を遂げ、世界の市場に雄飛するに至つたのは、茲に深い原因があると云ふ事を考へ私は其處に見えざる尊い力を見、直接我々の心に響く無聲の聲を聞いて、誠に深い感じに打たれ却つて御喜びを述べる事も能く出来ませんでした。之は私獨りの感じではなく、其處に居つた方々の等しく動かされた所で、或方の如きは堂々たる男子であるが、實に感極まつて涙を流して居られたやうでありました。

翌朝も猶私は此の感動を以て櫻楓會の例會に臨みました所が、丁度前日と同じ空氣が、會員の間に動いて居り、各自の間に生きた力が通つて居るのを見ました。そこで豊明會員の間、本校の中に、一種の生命とも云ふ様なものが通して居る事を

見、從來よりも一層深く之を信じまして、私は大なる喜びを得ました。

そこで此の際我々は、何卒して三十年來養つて來られた豊明會の精神に觸れ、其の空氣を感じる事が、我々が常に求めて居る生命を養ふ上に、大いに大切な事であると考へました。之が今日御來校を願つた一つの動機であります。

生命とか、無聲の聲とか云ふ様なものは、目に見る事も、耳で聞く事も出来ないものであるから、斯う云ふ経験のない者には、迷信の様に思はれるかも知れませんが、之は目に見、耳に聞こえる物よりも、一層慥なる實在であります。目に見え耳に聞える物は、時と共に變り遂には滅びるのであるが、此の生命は永久に死なゝい、滅びる事はない。即ち人間を昔から向上せしめて居つた所の、神聖原理とも云ふべき一つの力、或生命がある事を我々は信するのであります。

人と人との間、社會、國家の關係は、單に物質的の關係に依り、偶然の事實に依つて結ばれるものではない。其の隠れたる土臺に、之を支配するものがある、之は我々の有限の力を以つて、知り盡す事は出来ないもので、昔は之を神とか、宗教とか申して居りました。昔の其の考の中には、今日の知識から認められぬ部分もありますが、然し其の眞體には慥に永久に生きる

所のものがあるので、之は我々が眞面目に、凡ての困難に克つて追求するならば、必ず味ふ事の出来るものである、必ず得る事の出来る力であつて、我々が本校の創立以來、日夜心を盡して養つて居るものは、即ち之に外ならぬのであります。

今日豊明會員諸君の籠れる、此の豊明館の講堂に於て、諸君を迎へて御喜びを述べ、御話を伺ふ事が出来ますのは、我々一同の重ね重ね喜ばしく感ずる所であります。

〔櫻楓會通信〕第三十號 明治四十三年六月

精神修養上に受ける夏季の恩恵

夏季は一年中でどんな時であるかと云ふに、凡て自然の風物が戸を開いて、人の來り交るのを待つに似て居ると思ふ。山は積雪を解いて人の登るに都合よき道を啓き、海は水を温めて浴みるに心地よい。加之太陽は充分の光線を與へて、樹木を非常の力を以て成育せしむる。蜜蜂や蟻は終日外に出でて、年中の食餌を蓄へんが爲に孜孜として働いて居る。人も亦小さき屋根の下よりは戸外を慕ひ、樹蔭に涼風を呼んで半日の勞を慰し、或は歸省したる子女を圍んで月夜に語り更かす等、一年中でこの時ほど人が自然物に親しむ折の多い時はないであらう。人はこ

の自然に接して如何なる感興を催すであらうか。かの詩聖テニスンが、壁の裂隙に咲く花を歌うて「小さしとも根を持つ全き花よ。吾もし汝の何たるかを理解するを得ば、やがて人の何たるか、神の何たるかをも知らん」と云うて居る。海に接して世界を思ひ、山に住うて宇宙といふ念を起し、天を仰いで無限と云ふ感に打たるゝ時、どうして我々はその意味を考へないで居られやうか。同時にこの偉大にして無限なる天地に、意味あり氣に生存して居る微弱なる人間の吾てふ事に思ひ到らないで居られやうか。この偉大のもの無限のものと吾との交りが、やがて我々が宗教的精神に入る第一歩である。換言すれば、かくて初めて精神修養の經驗を得る事が出来るのである。

日本の學生は随分學ぶものが多いので、日頃はこれを咀嚼して、わが知識、學力とする餘裕がない。故に往々その不消化なる知識の爲に頭を悩まされる事がある。殊に現今の我が社會は、實に雑多な思想が入り亂れて居るので、學生も亦これに感染せずには居られない。故にさまざまの疑問が湧いて、終にこれを統一する事がむづかしいので、弱き青年の頭は往々病的に陥るのである。幸に夏季の二箇月は、心身に餘裕を作る事が出来るから、心地よい早朝に冷水で全身を摩擦し、深呼吸し、新しく爽かなる頭を以て、さて徐ろに靜思して知識を消化し、思

想を統一して、健全なる理想を作る事が必要である。而してその理想に現在の我を比較して、足らざるを補ひ、及ばざるを進むる事が修養の要訣である。

歸省したる學生は久し振りで父母兄弟に見え、舊師を訪れ、舊友を訪ひ、近隣親戚のものを訪ねて、眞に人との關係を學ぶ事が出来る。日頃修養した精神はこの場合に鍛鍊される事が多い。學生の一舉一動は、單に一身の毀譽褒貶に止まらずして、直ちに學校或は教育の價値に及んで来る。この重き責任を負うて、多くの人に接する事は、餘程修養上には利益ある事と思ふ。其の他常は仕事に餘念なき者も、少閑を得て旅行するとか、或は山間、海邊に避暑するとかして、違つた人情、風俗に接して學ぶ事が多からうと思ふ。

正宗の名刀とか、左甚五郎の彫物とか、尊ばれるのは、眞に作者がそのものに靈魂を打込んで作り上げたもので、従つて今もなほ人神の妙技に一種の生命の宿つて居るかを思はしむるのである。今日我々は文明の恩恵を蒙つて、一方では大いに人力が省けると同時に、一方では工藝品に技術の妙味を失ひかけて居る。獨り工藝品のみならず、人間の仕事が次第に殺風景に陥りかけて居る。私は暑中休暇等には、世の子女に手工なり勞働なり、機械を離れて精神を打込んで働く經驗を得させ度いと思

ふ。暑中閑暇の時を利用して、秋になつたら兄弟に送る靴下を編むもよい、一家の者や、自分の衣服を裁縫するもよい、子供は酸漿の赤らむのを楽しんで、朝夕心を盡して水を注ぎ蟲を取つてやる事等もよい。凡てわが精神を傾け、わが手指を動かして作つたものに、どれだけの尊さと趣味とがあるかといふ事を知らせるのは、人の周圍にある事物に興味を見出して、愉快に働いて行く事が出来る一助ともなるであらうと思ふ。

〔家庭〕第二卷第八號 明治四十三年七月

夏期講習會に於て學ばれたる教訓

私は七月中旬から教育視察の爲長野新潟地方を旅行致し、兩三日前に歸つた許りでありますから、講習會の細かい事に就いては、餘りよく知らないのであります。然し皆さんが此の講習會の爲に、北は樺太、北海道から、南は九州の果から、態々此の暑中に御出掛けになつて、少しも疲れた様子もなく勉強された事、又講師諸君が、今は休養なさる事が必要であつたにも拘らず、熱心に講習の爲に御盡し下さり、櫻楓會本部の當事者も、非常に骨を折つて働いた事に對して、只一言御挨拶を致し度いと考へます。

此の講習會は誠に短い時日でありましたが、講師諸君も、講習生諸君も非常なる熱心を以て最善を盡された爲短い時日に比しては充分の結果であつたと云ふ事で、之は皆さんと共に私の喜びに堪へぬ所であり、又今昔の感に打たれざるを得ぬ所であります。長野新潟地方に於て私は卒業生の櫻楓會支部を訪ひ、又其の地方の教育視察を致しましたが、之を二十年前私が新潟に居つた頃の狀態に比較して、大いに喜ぶべき結果が現れつゝ、ある事を知つたのであります。之は何を以て知るか云ふと、勿論各方面に現れる種々の事實現象に依るのであるが、其の中でも主なる標準となるものは、注意力である。注意力は人間が知識を獲得し、又之を統一する力であつて、之に依つて人間は進歩する事が出来るのである。故に注意力は人間の知識を計る秤であると考へても宜しいと思ふ。此の注意力が、大いに御婦人にも出来て來た事を私は認めたのであります。

其の一、二の事實を申し上げますと、今度の旅行中私は所々の學校から招かれて話を致しましたが、其處に集つて居る御婦人を見ると非常に元氣があつて、進んで何かしようと云ふ活氣に満ちて居る。而も老人も、亦幼兒を連れて來た母も、子供も澤山の人が集りましたが、一人として態度を崩すものはなく、充分に注意力を働かせて聽いて居りました。學生の風采は見慣れな

い者には少しく粗野の様に感ぜられますが、之が一堂に會して話を聽く時には、殆ど別人かと思はれる程に、靜肅になるのであります。

殊に私が新潟縣の三條町で、小學校と工藝學校の生徒、凡そ千二百名許りに話を致しました時に、私は子供達に對して種々質問を出しましたが、直ちにハッキリと、間違ひなく答へを致しました。世界の太勢に就いて、又外國と日本との關係に就いて尋ねましたが、大抵爾う云ふ事も教へられ、又其の知識が消化されて居る様でありました。廿年前私が外國へ參りました頃は、我が國の學生は物の解りが鈍い様でありましたが、外國の高等學校の學生等が代數等の問題を解して居る所を見、又小學校などで子供が分數をして居る所を見て、非常に敏捷なものであると云ふ事を著しく感じましたが、廿年後の今日に於ては、我が國の學生の頭腦の働きが大いに進んで、敏捷になつて居ると云ふ事を感じました。最後に私は男女の教育に就いて聞きました。殊に新潟地方では實科を重んずる傾向に向つて居りますから、其の事に就いて聞いてみました。言葉は違ひますが其の意味は、男子は高等の教育が必要であるとして教育せられて居るが、女子には高等の教育は必要がないのであらうかと申しました所が、千幾百の子供が、一人として手を擧げるものがない

い。然らば男子に高等の教育が必要である如く女子にも高等の教育が必要であるかと尋ねました所が、其の娘達が皆誠に喜ばしい顔をして、勇ましく手を挙げたのであります。斯く小學校の子供でも注意してよく人の話を聴き、又質問されるれば自ら判断して、立所に自分の意志を表す事が出来る様になつたのを見れば、如何に我が國の教育が進んだかと云ふ事が解ります。

此の講習會に於けるあなた方の好結果を見ましても、矢張り注意力を最もよく用ひた教育の結果が、今日に至らしめたのであると云ふ事が解るのであります。此の頃私は或人から頼まれて、文字を書いて上げました。其の言葉は、「精力集注の一日は不統一の生活の一年に勝る」と云ふのであります。此の講習會は誠に短い時日であつたが、然し其の一日は精力集注の一日であつたから、不統一なる生活の一月に勝るものであらう、又此の精力集注の經驗は、あなた方の知識の藏の鍵である。あなた方は生涯此の鍵を用ひて、益々多くのものを見出す事が出来るであらうと思ひます。

夫れからもう一つ、皆さんが見出したであらうと思はれる事は、知識と實行とは並行しなければならぬ、理想と實踐躬行とは一緒にならねばなりぬと云ふ事である。只今私は彼方の室に陳列してある洋服、編み物、刺繡等、種々講習會の結果の手工

品を見ました。私共は一向爾う云ふ事は不得手ではありますが、直接其の指導をなさつた講師の經驗に依ると、高等の教育を受けた者、即ち頭腦の進んで居る人は、教育のない人より解りが早く、上達が著しいと云ふ事であります。先年米國に於て、最も進んだ工業教育を授けて居る學校の校長も爾う云ふ意見を述べられました。之は私共も屢々實驗する所であります。手の働きも頭腦の働きを要し、又手の働きと頭腦の働きは一致するものであると云ふ事を、皆さんが今度充分に經驗されたのであらうと思ひます。又英語の講習に於ては、講師は凡て英語研究に必要な原理を講ぜられたと云ふ事である。凡てのアートを學ぶには、先づ原理を見出す事が大切である。ものを爲すに原理を應用してすれば、大いに力を省く事が出来るのである。つまり原理を見出すと云ふ事と、之を應用する事が充分に出来なければ、眞に結果を現す事は出来ない。學問と實地とが一致しなければ、本當の力は得られないと云ふ事がお解りになつたてありませう。

此の精力集注と云ふ事、又一方に學び、又一方に行ふ、即ち學問と實行と一致させると云ふ事は教育上實に大切な事である。之をあなた方は僅な時日を以て本當に經驗されたので、之はあなた方が此の暑さに汗を拭うて、最善の力を盡された報い

である。夫れでどうか此の經驗を失ふ事なく、益々共に力を協せて、廣く之を及ぼして行き度いと、深く希望するのであります。

終りに臨んで私は講師諸君、並びに講習生諸君が終り迄、忠實に熱心に其の事を御努めになつた事に對して、深い感謝の意を表するのであります。

〔櫻楓會通信〕第三十一號、櫻楓會主催第三回夏期講習會

終了式 明治四十三年七月

北越に於ける女子教育獎勵の巡回講演

今年は七月中旬から下旬にかけて、地方の教育視察の爲、私は長野新潟地方を旅行し、櫻楓會支部をも訪問した。夫れから歸つて間もなく、今度は評議員の澁澤男、森村市左衛門氏と一緒に本校からは塘氏も同行して、同地方を巡回したが、其の目的は女子教育を獎勵し、女子高等教育に對する輿論を作るのにあつた。始めは之と同時に本校十年紀の基金募集もする考であつたが、或人から、夫れは今は非常に時期が悪い、例へば新潟縣でも縣立の學校が二十六もあるのではなかなか縣費では足りない。そこで銘々寄附を募つて居るので、教育の負擔はなか／＼

重くなつて居るのみならず、新潟市には近く三回も大火があつたので、まだ回復が出来て居らない。其の上市況と大關係ある日本、實田の二大石油會社が目下不況であるから今行つても到底無効であらうもう少し延ばしてはどうかと注意を受けた。然し澁澤男も、森村さんも非常に御多忙な方であるし、時期が悪いと云つても何時よくなるかと云ふ事も解らない。折角思ひ立つた事であるから、夫れでは兎に角基金募集は止めて、只女子教育に就いての輿論を喚起して來ようと云ふ事になつたのである。

そこで八月四日の一番列車で我々は東京を出立し、其の日は輕井澤の三笠ホテルに宿泊した。今度の旅行は後から考へると實に運のよい旅行であつたが、然し出立する前には非常に暑くて東京より一層暑い新潟等へ老人が行かれるのはどうであらうか、もう少し氣候がよくなつてからにしてはどうかと云ふ様な注意も大分受け、又森村さんは出立の二、三日前から頭痛に悩み、其の上井上子爵逝去の報に接して大いに心を傷めて居られたので、(公市息森村開作氏夫人は井上子爵令嬢なり)私はどうかと深く氣遣つたが、なに行くと云つて氷囊を載りて出立された様な次第であつた。

輕井澤へ着くと、森村さんは直ちに休まれ、澁澤さんと私

は、丁度輕井澤に桂總理と西園寺侯が居られるので、雨が降り風が吹く中を馬車で رفتつた。直ぐ近くだと聞いたが、桂總理の所迄はなか／＼遠くて寒い。丁度總理に直ぐ御目に懸る事が出来て、澁澤男は今度女子高等大學の爲に北越へ行くと言ふ事を話され、總理からは女子高等教育の結果に就いて種々質問されたので、私は前に北越に行つて卒業生に逢つて見て來た事や其の外の事を話した。夫れから男子の教育に就いても話が十分出た。辭して歸るともう九時で、西園寺侯を御訪ねする事は出来なかつた。歸つて見ると廣岡さんが來て居られて、森村さんと話をして居られた。

夫れから暫くして休んだが、寢室は三つ共近く並んで居るので、澁澤さんの咳嗽が聞え、森村さんが眠られぬと見えて動くのも聞える。出立する前に随分方々から心配して止められた事もあるから、私も大いに責任を感じて居るので、どうも到底眠られない。そこで二時頃に起きて仕舞つて、手紙を櫻楓會其の他へ四、五本書いた。四時頃には皆さんも早く起きたのでどうですかと云ふと、イヤもう宜しい大丈夫だと云ふので又早朝出立した。此の日は柏崎へ行くのであるが途中上田、長野、高田にも、澤山人が出迎へて居られ、櫻楓會員も出て居つた。

二十年前私は新潟に居つたが、其の頃は交通も不便で縣下に

一つの中學も高等女學校もなかつた。そこで私は新潟女學校を起し、又男子の爲に北越學館と云ふのを開いたのである。然るに今日では十一の縣立中學、縣立高等女學校が五つ、其の外農林、商業學校が縣立で幾つか設けられてあり、日本、寶田の二大石油會社の成立に従つて交通も大いに便利になり、非常なる發達を遂げて居る。

柏崎では櫻楓會員や、前の北越學館の出身者は勿論其の他市の主なる實業家、教育家、官吏等皆出て火花をあげなどして、町中學つて大いに歓迎された。宿屋へ着いて直ちに柏崎高等女學校を參觀に行つたが、此の學校は本校のよい所がとつてあつて、例えば寄宿舎等も家族的でよく出來て居る。寄宿舎ではなか／＼よい食物を攝つて、しかも一ヶ月三圓ですむと云ふ事で澁澤男も森村さんも感心して居られた。夫れから市の歡迎會に行つた。會には市の主だつた人が六、七十名も出て居られて心から歓迎された。其の晩は鯨波の牧口氏の別荘へ招かれて其處に宿泊した。此の別荘は高い斷崖の上にあつて、下は底も知れぬ日本海である。海上に近く佐渡ヶ島が見え、遠くには浦鹽が見えはしないが、見え相に思はれる位で、實に眺望絶佳である。翌朝私は早く眼が醒めて、此の靜かなる天地を見て、種々の感慨が胸に滿ちた。柏崎の前には質素な眞面目な所であつた

が、物質的文明の發達に伴ひ、華美の風も盛んになり、其の弊も又少からぬ様に思はれ、又三十何年前、十七歳で神戸の宿屋へ泊つた時、階上の酒歌亂舞の有様を見て大いに決心した當時の事が思ひ出され、女子教育の過去將來、國家の將來等に思ひ至つて、實に獨り落涙を禁ずる事が出来なかつたのである。

此の日朝九時頃になると花火が又ドンドンあがつて、演說會の開會を町中に知らせると、澤山の人が集つて來られた。此の日私は、何故に今迄教育とは一寸縁遠く思はれて居た實業家と共に何をする爲に來たかと云ふ事を、モーズレーの事を例に引いて話した。英國の實業家モーズレーは、米國の非常なる進歩と富は教育にありと考へ、教育家二十六名を選んで共に米國に渡り、米國の教育を視察して大いに英國の教育界の覺醒を促さんとしたのである。今後の教育は實業的社會的にならなければならぬ。教育は政府の手のみを待つて居つては到底本當の事は出来ない。國民が自ら進んで教育を起すのでなければならぬ。今後の革命は實業家と女子と青年に待つ所が多いのである。澁澤男、森村翁の如き實業家が斯く女子教育の爲に叫ばれるのは何の爲であるか、眞に國家の前途を慮り、社會の進歩を希ふならば、女子を起たせなければならぬ、と云ふ意味であつた。澁

澤男と森村さんは非常な熱誠を以て女子教育の必要を説かれ、之が出来なければ國家は危いと云ふ位に、實に深く感じて演說され、聴衆は熱心に之に耳を傾けて、誠に眞面目な會であつた。

此の時新潟から出迎への人が態々來られたので、我々は此の人々と一緒に最初長岡へ行つた。柏崎以來一同は一層の勇氣が出て、森村さんの頭痛も治つて仕舞ひ益々愉快になつた。長岡へ着いた時は非常な雷雨であつたが、夫れにも拘らず盛んな歡迎會が開かれ、夫れから長岡座と云ふ新築の劇場で演說した。聴衆は千四百名もあつたが、まだ這入り切れないで、空しく引返した人が二、三百人もあつたと云ふ事である。此の時私は柏崎で深く感じた事を幾分現した。つまり新潟縣の物質的文明は此の二十年大いに進んだが、夫れに伴うて弊害も亦免れぬ様である。然し皮相を去つて深く觀察すれば、二十年前に蒔かれた精神的文明の種も追々成長して、私が居つた頃は一つの縣立中學もなかつたのが、今では二十六の縣立學校が出来て居る。又二十年前眞面目に精神修養に努めて居た青年は、今日では縣下に於て各方面の牛耳をとつて居る樞要な人物となり、眞に國家を思ひ、地方の發達を計つて自己の利益等は少しも眼中に置かぬ人も少くない。又女子教育も益々盛んになる様であるか

ら、將來に於て精神的文明の發達も期して待つべきものがあるであらうが、猶此の上にも一層根本の文明を進める爲に力を注ぐるゝ事を望むと云ふ様な意味であつた。

午後は長岡の櫻楓會支部會に出席して會員から種々話をきき、夜は又長岡中の主な人々から歡迎會に招かれた。基金の方は募集せぬ積りであつたが、進んで寄附を申込まれた方もあり、又有志の人から之丈け人心を動かして此の儘にしては残念であるから纏める様にしてはどうか、我々も出来る丈け盡力するからと云ふ様に云はれたので、夫れではと七、八人主なる人を委員とし、其の方々に依頼したのである。此の外柏崎、新潟、新發田等からも講演を頼みに委員がわざわざ泊りがけで交渉に來られたが、時の都合がどうしても出来ないで、遺憾ながら新發田は斷わり、加茂へ行つて農林學校を會場として講演し、直ちに新潟へ行つた。

新潟でも市の有力者が大いに動いて居たので非常な盛會で、あらゆる方面の主な人が殆んど來て居られた。新潟から急いで三條へ行つた。此處では玉木さんと本校の生徒が心を籠めて用意した晝餐の御馳走になつて、皆さんが非常に喜ばれ、味もなか／＼良く出來て居た。

三條で講演して新津へ行き、講演を濟まして夜汽車で高田に向つた。然して毎日々朝早くから多くの人に接し、行く先き先きで熱心な歡迎を受け、講演をして、又歡迎會を斷つた所もあるが、夫れでも度々開かれるので、夜も晩く迄かゝると云ふ様な譯で、私は長岡から聲がかれて仕舞ひ、澁澤さんも餘り聲が出なくなつた。只森村さんは幸に何ともなかつた。然し一同精神が旺んであるから、出ない聲を絞つて度々話したがさう疲れもしない。然し随分多忙で骨が折れたので、「今度の旅行は我々青年の修學旅行である、然し校長の引卒が餘りに嚴に過ぎる」と云ふ様な戲言を澁澤男が云はれて、一同非常に笑つた事もあつた。高田でも非常な歡迎を受けて講演し、夫れから長野へ行き、上田へ行く積りであつたが、上田は盆にかゝつて時期が悪いのと、又信越線の鐵道が不通になつたので、中央線をとつて歸京する爲に諏訪へ出た。

諏訪には知つて居る人は餘りなかつたのにも拘らず、盛んな歡迎會を催され、翌十五日の朝雨を侵して出立した所が、中央線も亦損じて、葦崎から甲府まで三里餘も歩かねばならぬと云ふ、夫れでは歩かうと云ふ事で、葦崎から駕籠を頼み澁澤男と森村さんは駕籠で私も塘氏も其の外一行の人々も皆結束して、妙な笠を被り蓆を着て、雨を犯して水中を進んだ。今考へると

どうも可笑しい風であつたに相違ない。出立する時に梅干を入れた握飯を貰ひ、一同は之で晝はしのぐ積りで、澁澤男なども、戦争と考へれば宜しいなどと云ふ有様であつた。小さな川が皆氾濫し、假橋の左右にゆれるのを渡るので、若しも興丁が一寸躓くならば、駕籠は水中に陥る計りであるから、大いに心を寒うした事があつた。

途中鹽川と釜無川が大氾濫で、誰も通さないが、一行丈は警察の厚意で渡して呉れると云ふ事で、船と屈強な船頭も七、八人用意してあつた。然し非常に瀬が強いので、大丈太かと云ふと警察で請合ふと云ふ。夫れなら無責任な事はないから行きませうと云つたが、澁澤男も森村さんもそんなに危険を冒して迄、一日早く歸らなければならんと云ふでもないからと云ふ様な意見であつた。然し折角大騒ぎをして用意をして呉たのであるし、又私はやり掛けるとやり度い方なので一人で船に乗つて具合を試みた。所が水流が實に急なので、舟は到底一直線に向ふ岸へ行けない。水流に順つて屈折し、又岸から針金や綱を渡して之に助けて貰つて、一時間も費して向ふ岸へ着いたが、綱が切れたりして中々危険な事がある、之では中止する方がよいと思つて又前の所に歸り、一行は又上諏訪へ返した。

此の時も上諏訪では大いに歓迎されて、夫れでは今晚丁度よ

いから講演して貰ひ度いと云ふ事で、夫れに應じた。丁度上諏訪に來て居られた文學博士三島中州、博物館長股野藍田の二氏は、澁澤男と大學寮時代からの竹馬の友である所から、諏訪湖に舟を浮べて共に清遊を試みた。翌日は又一番で出立した所が、幸ひ甲府迄の所は大抵開通したので、葦崎から十四五町歩き、其の外中途で四五徒歩歩いて、折悪く猛雨に逢つたが、然し一行皆元氣で薄暮に新宿に着く事が出來た。

途中で東京の新聞を読み、東京其の他の地方の非常なる慘狀を知つて大いに驚いた。汽車不通の爲新聞も來なかつたのである。夫れから我々が十三日に三笠ホテルに泊つて、三笠ホテルが流失したと云ふ記事を示され、之にも吃驚した。交通は杜絶し通信も一時は不通で、後から聞くと我々から打つた至急報の電報が漸く翌日着いたと云ふ有様であつたから、東京から幾度も安否を氣遣うて打つたのも勿論我々には届かない。夫れで様子解らない所へ斯う云ふ記事が出たので諏訪に居ると云ふ事は解つて居たが、然し澁澤さんでも、森村さんでも、學校でも非常に心配したと云ふ事で、新聞を見て方々關係のある所からはどうか〜と問ひ合はされ、實にえらい心配をしたと云ふ事を、歸つてから聞いたのである。

然し新聞に出た事も全然根據のない事ではない。豫定は十三

日に輕井澤迄歸り、三笠ホテルに宿泊する筈であつたのである。然し夫れを變更して諏訪へ出たのは實に幸運であつた。今度の旅行は大いに氣遣つた炎暑も左程でなく、却つて時には寒い位で誠に仕合せであつた。若し出立がもう四、五日後れたならば、出水の爲中途で動かれなくなり、目的を達する事等は思ひも寄らぬ様になつたであらう。又もう少し早く出立したならば、輕井澤へ歸つて居て、本當に新聞が傳へた様な災に遇ふ様になつたかも知れない。歸京は汽車の不通の爲一日後れたが、然し其の爲に豫定以外に諏訪で講演會を開き、又湖上の清遊もし、諏訪の温泉に浴して、長途旅行の勞を忘れる事が出来た。

歸途には少し困難もし、又皆さんに非常な御心配をかけたのはどうもあまりよくないが、然し實際は澁澤男も、森村氏も非常に元氣で大いに熱誠を現され、各地に於ても熱心な歓迎を受けて、豫期以上の好結果を收めて、一行無事に歸京する事が出来たのは、全く天祐とも云ふべきで深く感謝に堪へぬ所である。

教育、殊に女子教育など云ふ事に對しては、我が國では當事者以外の人は、まだ誠に冷淡である。然るに今回澁澤男、森村氏の如き實業家の、然も非常に多忙なる方々が、單に金を寄附し、或は評議員として盡すと云ふ丈けでなく、非常なる熱誠を現して、普通ならば避暑にでも出掛ける時に、大いに決心して

壯者も及ばぬ勇氣を以て、東京より一層氣候の悪い所へ出掛けられ、全く女子教育獎勵の爲に貴重なる時を半月餘も割いて地方を巡回され、非常に骨が折れ種々の不便もあつたが少しも之を意とせず、誠心誠意を以て、直接女子教育の爲に力を盡されたと云ふ事は實に我が國には未曾有の事で、歐米にも餘り例を見ぬ美舉である。之に依つて地方の女子教育に關する輿論は幾分必ず動かされ、女子の父兄も、亦一般の男子も女子に就いて一層眞面目に考へる様になり、又此の地方にある櫻楓會支部の會員は素より、一般の婦人自身も、大いに此の熱誠に動かされて、責任を自覺し自重するに至つた事は事實であつて、之は婦人の爲國家の爲、實に喜びに堪へぬ事である。

〔櫻楓會通信〕第三十一號附錄 明治四十三年八月

國運の發展と女子教育

私はこれ迄に學者、並びに教育家と一團を成して各地を巡回して講演を開いた經驗は多く持つて居りますが、實業家の方々と一所に各地を巡回し、講演會を催すといふ事は今回を以て始めと致します。又澁澤、森村御兩君にも斯様な組合せを以て講演會を開くといふやうな事は異數の例であらうと思ふのであり

ます。就きましては諸君の間にも或は一の疑問が起るでございませう。即ち斯くの如き團體が如何なる目的を以て今回の如き企てをなしたのであらうかといふ事である。それに對して私は斯うお答をしたいのであります。今から六年程前英國の實業家モーズレーといふ人が北米合衆國と獨逸帝國とが實業、教育、軍事其の他各方面に於て今日の如き大飛躍をなし、又前途に洋々たる大希望を湛へて居る其の盛んなる國運の由つて來る處は果して何處であるかといふ疑問を懷いて、頻りに注意して觀察した結果、それは全く國民教育に根柢が存する事を認めて、更に國內の學者、教育家廿六名を糾合し、自ら先頭に立ちて米國視察に赴き、實際に就いて詳細の研究を試み、米國の教育が非常に進歩してゐる事を確かめ得て歸國し、其の報告書を編み、各地に報告演説をして母國民を覺醒せしめん事を企てた事があります。此の度の吾々の企ては丁度これに類したものでございませう。又斯くの如く實業家が教育講話をせらるゝと云ふ事は、昔は誠に不思議の事であつたが、今日世界の大勢は之を不思議と思はせないのであります。如何となれば今日の教育は實業的社會的教育とも名づくべきもので、將來教育は益々實業と密接の關係を有するに至る勢であります。北米合衆國では一方に大會社の社長となり、一方には民衆の指導者となつて社會人

心の指導に貢獻する人が少くない。又實業界に身を置いて傍ら大學の講師になつて教育に盡瘁する實業家も少くないといふ有様であります。我が國に於きましても斯くの如き時代の要求よりして實業家たる兩君が教育の爲に、此の暑さをも厭はず、地方に出掛けられたといふ事は、我が國の實業界、教育界にとりまして誠に慶賀すべき事であると信じましたので、色々の困難を排して此の度の行を企てた次第でございませう。

御承知の諸君もございませうが、私は御當地の教育事業には聊か縁故があるのです。それは最早二十年前になりますが、其の頃の知事篠崎五郎君、其の他の諸君と共に此の地に女學校を開き又加藤勝彌君、阿部欽次郎君と北越學館といふ男子の學校を設立したことであります。これが抑も御當地に於ける女學校の嚆矢ともいふべきものであります。其の後二十年を経て第二の郷里ともいふべき此の北越の地に參りまして今や縣下の高等女學校は五箇所、其の他の縣立學校二十六を數へるといふ有様で、此の縣下の市民諸君が教育事業に非常に御熱心であるといふことを聞いて、實に喜びに堪へないのであります。斯様に女學校といひ、男子の學校といひ、其の校數に於ては全國稀に見るの盛況を呈して居りますが、吾々が最も根本として居る所の人間の教育、人格の教育、精神の教育といふやうなことは何

んな傾きであるか、是れが最も知りたいと思ふのであります。

獨逸の文豪ゲーテは一國の運命は二十五才以下の青年の元氣に依つて支配されると申して居ります。ゲーテは彼の時代に於て二十五才以下の人を青年と名づけて居りますが、今日は少くとも四十才迄を青年と云ふべきであると吾々は考へて居りません。私は今後新潟の市民として、新潟の運命を支配するものは、四十才以下の青年の確乎たる信念、崇高なる品性、偉大なる理想、優秀なる智能に由るであらうと考へるのであります。

然らば四十才以上の壯年及び老人は如何といふに、茲に居らるゝ澁澤男爵は「自分はまだ青年である、これ位の暑さに辟易するものか」と云うて居られる。森村氏は「自分は白髪の子供である、之からが修養時代である」と云はれる。此の頃地方巡回から歸られた岡部子爵は「四十、五十は花咲く頃よ、人の成實は八、九十」と狂歌を作られた。かういふ風に七八十に至つても青年の元氣が毫も衰へずに居られる人々がある。世界に於て最も人智の進んで居る北米の如き、獨逸の如き、其の國民は八十、九十の人々が何れも青年に劣らぬ意氣を以て學問をして居る、事業をして居る、修養に努めて居るといふ有様であります。これが今日の文明國の特色である。故に私共は益々若返つて元氣ある國民となつて、青年達と伍を成して益々奮闘努力し

なければならぬと考へるのでございます。

昨日澁澤男爵から當市の市民諸君に向つて、當市は政府の補助や、他國民に依頼する所の事業をのみして居るべきではない。積極的に益々事業を計畫して、事業の範圍を擴張して行くの氣概がなければならぬといふお話がありました。私も同感でございます。英國のある學者は土地を富ます所の秘訣は、實業を興し、若しくは實業の野を廣くし、人民に勞働を授くるにありと云うて居る。新潟市も屢々火難に遭遇し、又交通機關其の他の社會の變遷に伴ふ色々の影響を被つて、稍々困難の地位に陥つて居るといふ事を曾て聞いて居りました。吾々は如何にして其の衰運を挽回する事が出来るかといふと一に國民の思想に因るのである。四十以下の青年の意氣に在ると私は信ずる。其の方法としては諸君に於て種々の御考案もありませんが、私の考へる所によりますと、實行に躊躇するものを斷ずとして勇往邁進せしめなければならぬ。又吾々の内に深く蓄ふる所の原動力を發揮する事に努めなければならぬといふ事を痛切に感ずるのであります。是に至るには今日新興國として世界を凌駕して居る北米合衆國及び歐羅巴の中心を成して居る獨逸の如くに、我が邦も矢張り教育に力を注ぎ、適切なる教育を國民に施すことにしなければならぬといふ事は何人にも異論のない事だ

ございませうが、併しながら果して如何にしたらば其の効果を
得べきかといふ問題に就いては、爲政家に於ても憂慮の存する
所、又着手に躊躇しつゝある所と思はれます。

私は又斯う考へるのでございます。我が國進歩の根本に對し
て妨害を爲して居るものは、我が國が役人萬能主義、官營萬能
主義といふやうな、即ち一般に官尊民卑の思想が未だに抜け切
らないからであらうと思ふ。實業も政府に頼り、教育も政府に
頼つて居る。國民の精神を養ふ教育を施すに當つても一に官に
依頼し、其の力に依るより外に途がないといふ有様である。然
るに眞に國家を思ひ、眞に世界の大勢を洞察して居られた大政
治家故伊藤公爵は實にこれを以て根本的の誤謬として居られた
のであります。曾て我が教育の進路を開き學問の獨立を計る爲
に政府はもつと多額の資金を教育に投じなければならぬといふ
説に對して、公爵はイヤ二千萬、三千萬の金を投じて理想の教
育を興さうとするのは間違つて居る、眞に教育の進歩を計るの
道は、國民に於てそれを自らの責任として喜んで教育事業に資
金を投ずる熱誠が現れなければならぬ。國民に對してそれだけ
の感化力を持つ教育家でなくては眞に國民を進め、國民の頭腦
を開拓する事は決して出來ないと云はれた事がある。又曾て故
公爵が總理大臣で居られた時に、私は女子大學設立の意見を抱

いて公爵を訪問し、三つの間に對して答を求めました。「第一
に我が國の女子に高等教育を授けるといふ事は國家の上より
見、國民の現状より見て、必要缺くべからざる事であるまい
か。第二にこれを缺くべからざる事であるとせば、我が國家は
斯くの如き必要に應ずる爲に、女子大學を建設するの力があり
ませうか。第三に我が國民にこれだけの力ある事を認めらるゝ
ならば總理大臣に於ては發企人として此の事業を成立さする事
に御盡力を仰ぎたい」といふのであります。公爵は直ちに斯
く答へられた。「我が國女子の教育を大學迄進むる必要は確に
ある、併しながら我が國は家族組織であるから、多額の寄附金
を投ずるに困難なる事情もあらうが、又一方には義侠心に富ん
でゐる國民であるから、或は一舉にして莫大の金を教育事業に
投ずる特志家も現れるであらう。而して自分は發企人たる事を
承諾する」といふ事であつた。吾々は斯くの如き人々の贊助を
得て始めて女子の高等教育を始めたのであります。

實に亞米利加でも獨逸でも、國費を以て女子教育を起したの
ではない。唯露西亞では日本に於て女子大學が設立された後
に、官立を以て女子大學を起した。これが官立の始めである。
亞米利加に於ては彼のカーネギーの如き人があつて、自分の富
は社會が作つた富である。我が富ではないのであるから、國家

社會の爲に費すべきものである。と云つて既に五億の金を教育に投じて居る。斯う云ふやうにならなければ眞の教育は興らない、又實業は興らない、國運の發展は望まれないのである。而して日本女子大學校に於きましては、設立の年、畏くも 皇后陛下より御下賜金の恩命を蒙り、又今の總理大臣が贊助せらるゝを始めとし、餘程官邊と民間と一致して力を添へらるゝ風になつて居ります。斯くの如きに至りましたのも全く澁澤男爵、森村氏其の外設立當初に於て助けられた民間有力者諸氏の賜で、其の結果は普に女子大學のみならず、我が國の一般女子教育に虧からず貢献する事になつたと私は思ふのでございます。そして如何なる點に貢献したかと申しますと、我が國の高等女學校は女子大學設立後即ち既往十年間に百八十校の多きに達しました。これは女子の高等教育が始まつた影響と云うても誤つた觀察ではないと思ふのであります。

斯くの如く我が國の將來に必要な國民を養成する教育は、前申上げた通り、第一に國民の力に依らなければ眞に効果を擧げる事が出来ません。第二に女子の力に依らなければなりません。女子の天性が既に教育家である。遺傳は多く女子に由來して居るいふ事は今日一般の定論になつて居る事で委しく申上げる迄もないのであります。而して今一つ我が國民が忘れてなら

ない事があります。我が國家は干戈の勝利によつて漸く今の安きを得ました。今後第二の日英同盟、更に進んでは日露同盟によつて一層確實に安泰の地位にあるものと思ふと大に違ふのであります。なる程我が國民は武力の戰爭に於て、又經濟上に於て、世界列國の仲間入をしたのであります。世界に於ける活動と交通して來たのであります。けれども世界を統一する人道的活動、精神的運動の根本、即ち世界の平和、世界の人文に貢献して、世界的大理想を實現して行くといふやうな精神的活動に關して交通が始まつて居るとは申し難いのであります。歐米では此の點に婦人の努力が非常に加はつて居る有様であります。即ち國際問題、平和問題等に關して婦人の働きが加はることは珍しくないであります。然るに我が國の婦人は其の實力、其の精神に於て未だ世界の婦人の仲間入をする迄に至つて居ないのであります。

けれども眞に我が國の教育を興し、實業を興し、國運の伸張を圖り、世界の大勢に應じて進歩を遂げようとすれば、先づ根本の問題として婦人の實力を養ひ、婦人の品性を高め、婦人の智能を啓發するの必要があることは、多くの實例に照らして疑ふことが出来ない急務中の急務であります。先づ實力のある婦人、品性の高い婦人、智能の優れた婦人が多く出て來れば、夫

れ丈けでも國の力が強くなり、國民の品性が高まるのであります。何となれば譬へば一家の成員といふことから云へば婦人も男子と同じく一家を作る要素である。其の要素の一部が弱いか低いとか智能が不足して居るといふことは、即ち一家がそれ丈け弱いのであります。斯様に國民という點から考へれば、婦人も同じく國民である以上は、その一半が今より一層強くなり高くなれば、國家はそれ丈力が加はり、品性が高まる次第であります。次に社會各方面の事業より云へば、婦人が進めば進む程活動力が増進するのであります。即ち是まで男子の足手纏ひであり、繫累であり、甚しきは厄介者であつた婦人が、進んで後顧の憂ひを除き、更に男子の相談相手となり、協力者となり、相互に助け助けられるといふ迄に至れば、社會各種の仕事はそれ丈力が加はり、活動に元氣が増すのであります。最後には前に申しました婦人の天性に備はつて居る教育者としての効力である。即ち此の婦人特有の性能を遺憾なく發揮せしめる事が出来なければ、換言すれば、教育の力によりて其の精神を發達せしめ、品性と實力を養ひ、社會國家と將來の必要を覺知するに足る見識を得たる、よく四圍の境遇に順應することの出来る母によりて育てられ、導かれ、感化せられたる第二國民でなければ、將來の日本を背負うて往くことはできないのであり

ます。私共は是によつて將來の國運に多大の希望を繫ぎ、國力の増進、國運の發展を確實に豫期することが出来るのであります。學校も獨力では出来ない、社會も容易に成就し得ない國民教育の完成を、女子教育の發達によりて期待することが出来ると確信することは、決して謬論でないといふことが出来るのであります。

かやうに女子の天才を發揮し、其の本性を發揚し、其の識徳を充實し、其の品性を高尚にし、其の地位を上進せしめるといふことは、實に我が國の現狀に照らし、將來の國運に思ひ及ぼして今日國家の經營問題中の最急最要の問題の一つであるといふことは最早論議の餘地を見出すことが出来ないものであります。其の教育の方針を立て、高等教育の機關を完備することは、獨り教育者間の問題ではなく、政治家も實業家も決して之を等閑視する事は出来ないのであります。斯様な信念を持ちまして私は實業家諸君、政治家諸君が此の事業に就いて深厚なる同情を寄せられ、其の目的を達する爲に多大の助力を與へて下さるといふことを感謝する次第であります。

〔女子教育問題〕 新潟縣に於ける講演 明治四十三年八月

國民教育と實業家

酷暑の候にも拘らず、斯く多數諸君の御來會を恭ういたしましたのは深く感謝する所でございます。

過日私が始めて御當地に出ましたのは先月十六日でございます。而して其の一巡回を濟ませて再び第二の旅行を致し此の地に參りましたが、始終聲を使ひましたので、長岡邊りから聲が嘎れて十分皆様に明白に申し上げることが出来ませぬ。お聞き苦しいかも知れぬと思ひますから豫め申上げて置きます。實は今度の旅行は何と名を附けて宜しうございませうか、第二の巡回は、第一着に越後の柏崎に參りまして、彼の地に於て第一回の講演會を催したのであります、其の時に柏崎の諸君が、此の一行に對して——此の頃は色々の團體旅行がある、實業團若しくは觀光團といふやうな團體の旅行があるので——女子教育獎勵團といふやうな名前を附されました。夫れから段々各地を廻りまして、今回御當地に出ましたのが之が最終でございます。昨日澁澤男爵は其の終りに於て、是は吾々青年の修學旅行であるといふ名前を附せられたのであります。さう云ふ譚で、實は是は觀光團とか、或は避暑旅行といふやうなものではあ

りませぬ。寧ろ他に一つの目的を持つて居ります。

前に大體今度吾々が地方を廻ります目的、主義等に就きまして申上げた、其の時分にも多分第二回の巡回には澁澤男爵、森村君が御同行なさるであらうといふことを一寸申上げたやうに記憶致します。そこで今回の如き實業家たる澁澤男爵や森村君と共に各地を巡回して教育の講話會を開くといふことは、諸君に於きましても何う云ふ目的、何う云ふ趣意を以て斯う云ふ混成團を作つて教育のことを説いて廻るのであるかといふ疑念があるかも知れないと思ふのであります。是は我が國が是迄商賣と學問、又は武士と町人といふものが非常に懸隔があり、又非常に縁の遠いものであるといふ習慣、風俗があつたのであります。然るに世の中は大いに遷り變りまして今日に於ては實業と教育、武士と實業家、商賣人と社會道德といふものが殆ど一にして離るべからざる密接の關係を生じて來たのであります。故に今日の教育問題は實業的社會問題であります。社會問題或は實業問題は實に教育問題であると云つても決して間違ひないと思ひます。此の實業と教育といふものが、斯くの如く密接の關係が出来たにも拘らず、まだ我が國に於ては此の間に甚だ縣隔があつて遠いやうな感がある。全體學校と社會と、或は教育と家庭といふものが、何うも十分なる關係を有することが出来ぬ

やうな感があるのであります。

私は今日我が國の教育を革新するに當り、斯くの如き實業界の泰斗が、各地を廻つて所信を地方の女子諸君に訴へると云ふことは、實に今日の時代の要求である、我が國家の必要に適ふ所の働きであるといふことを信じて、此の行を企てたといふ譯であります。敢へて道理のない譯の分らない團體ではなからうと私は信じます。實は先月十六日に既に諸君に對し、今度の一行の目的と計畫を大體御紹介して諸君の御同情を乞ふたのである。故に此の行を終つて一番最終の會に於て再び諸君に目に懸る榮を得ましたから、其の結果は何うであつたか、其の目的は果して達したか何うか、此の行に於て觀察した處の信越に於ける吾々の感じは如何なるものであるか、吾々一行の経験談、及び其の結果を諸君に御報告することは或は適當かといふやうに感ずるのである。併し迎も僅なる時間に於て、斯くの如き報告を申し上げることは出来ないと思ふ。唯私は此の行に於て得たところの吾々の利益―男爵の所謂吾々青年の修學旅行に於て受けた所の経験を一言申上げ、幾分諸君の御參考に供するにとにしたいと思ひます。

私も子供の時から厳しい武士の教育を受けて、六、七歳の頃から朝早く郷里の漢學の塾に通つたのでありますが、雪の降つ

た時分にも親は足袋を穿くことを許さず、又如何なる寒い晩にも炬燵に這入れないといふやうな、厳しい教育を受けたのである。十三の時から自分の郷里を出て、爾來一文も親の助けを受けずに我が腕を以て學費を拵へたのであつて、實に今日迄私は中々困難を重ねたのであります。又十七年頃より女子教育に志し、爾來我が學問をする傍ら此の事業を經營することに志しましたが、實に一通りの困難ではなかつたので、我が腕、我が足、我が意志の續く限りを竭して、ナニ少々位の困難は恐れるものではない、少々は障害は恐るゝものではないと勇を鼓して負けなかつたのである。然るに今日の私は澁澤男、森村君の鑠たる、私より二十以上の御高齡なる先輩の實に元氣のあること、殊に意志の鍛鍊してある、體の鍊へられて居る、今諸君が一見兩君の御容貌を御覽になつたら、直ぐ誰も感ずるところと思ふが。今回も始め上野を立つて、先づ一番に輕井澤に於て勇氣を養ふ希望でありましたが、着くや否や、多數の來訪者が風雨を冒して遣つて來て、中々に多忙を極め、既に九時過ぎになつても猶來訪の人があり、漸く遅く寝られて床に入ると、コン／＼咳をするのが聞えるので、私は大變心配になつて能く眠れなかつた。すると森村君は頭に氷を載せて遣つて來て、寝て見たが能く眠れないと言はれる。出掛ける直ぐ始めの晩から此

の有様で、何うも私は心配になつて眠られなかつた。所が翌朝何うかと思ふと、ナニ大丈夫であるというて、勇氣を鼓して輕井澤を出たのであります。夫れから柏崎に着くと、直ぐ車を驅つて高等女學校に開かれた歡迎會に行く。又翌朝早く起きて演說會に臨むと云ふやうな風で、今日迄毎日毎日二遍位の演說會がありました。男爵の如きは時に三遍、多い時には四遍も演說をなさるやうなこともあつた。此の三伏の候に於て、七十以上にもなつて國家の爲強く御盡し下さつて、少しも疲れないのみならず、たつた一言の苦情をも聞いたことがないといふことは吾々若い人が到底及ばない所であります。吾々は意志の方面にも、亦健康の方面にも強いついふことは云はれないと誠に感じたのであります。

そこで是は何ういふ原因であるかと申すならば、是は少年の時代の我が武士道教育、即ち意志の教育、骨格教育―即ち體育であります。或は柔道、或は擊劍といふものであります。そこで何う云ふやうに此の體育といふものをしなければならぬのかといふに瀧澤男爵の如きは武州の方であるが、此の信州小縣などには若い時―十七八の時に彼の邊の山を何度越えたか知れない、草鞋掛けて毎年二度宛は小縣郡に商ひに來たのであるといふことを承つた。森村君の如きも全國を草鞋掛けて跋涉せられ

たといふことを屢々聞いて居ります。此の青年時代の勞働の爲に責任を重んじ目的に向つて突進するところの勇氣を養はれた。自分の足を運び、自分の體を使つて、即ち勞働して體を練つたのである。さうして此の様な體格を得られたのであります。艱苦と闘ひ、困難と闘うて此の體を作つたのであります。實に兩君の健康も高尚なる意志も是に基因するのであります。

是が今日我國の教育に於て缺けて居る。今日の教育は智育に偏して意志の教育、體格の教育といふ方面即ち勞働をする、刻苦困難に克つ、己の決心目的に向つて君の爲、國の爲に盡すと云ふ目的を以て總ての困難に克つ所の其の意志の教育が足らぬ。此の意志の教育此の健康の教育は若い時に遣つて置かなければ駄目であります。此の兩君如き、幼少の時に斯くの如き教育を受けたからして、斯くの如きを意氣高き成功をされたのであります。而して今日實業教育を鼓吹して以て實業を革新し、刷新せんと計畫された所以であらうと思ひます。

第二に吾々が此の修學旅行に於て學んだ事は、老いて益々盛んなりといふその原動力は、老いて益々學ぶことを止めない、老いて決して時世の進歩に遅れないといふところの心掛けであります。此の勉強修養を云ふのであります。此の度の旅行に於ても二、三分の餘計な時間があれば、兩君共必ず書物を披いて

何か讀書する。私は斯ういふ忙しい方は迎も書物を讀む暇がないかと思ひました。然るに今迄常に吾々が思ひ掛けない所の書物を始終讀んで居らるゝことを見たのであります。此の間整れた伊藤公の如きは、實に元老の中で時世に遅れない人でありました。併し乍ら公爵も常に自ら内に蓄ふる所があつたのであります。私は公爵と御話をする度に毎時も注意したのは、公爵の座邊に必ず五六冊の新しい外國の書物が見えたことであります。公爵は中々讀書家で、自分に必要な知識は總ての方面から吸收するに怠らない人であるといふ事を確めたのであります。斯くの如き方々があるに非ざれば、能く我が國今日の進展は遂げられなかつたのであります。又我が國に於ては學校の生徒に五十、六十といふ大人は見られぬのであります。然るに私が先年外國に往つた時、私の居つた大學に頭の禿げた者が居る。其の年を尋ねると五十である。何をお前遣つたかと聞いたら、大學を出てから二十年間新聞の經營を遣つて、今日は自分で新聞を起して居るが、今又大學に二度入つて學問するのであると答へました。又女子大學に參りますと、五十或は六十のお婆さんが矢張り勉強して居る。又五十以上で學者、博士と云ふやうな人に於きましても、矢張り大學生となつて勉強して居ります。斯う云ふ人は三、四年自分の専門の勉強をして又二、三

年經つと再び大學に入つて自分の目的に就き研究するといふやうな譯で、決して七十になつても勉強を止めないのであります。決して年寄になれば學問が不要であると云ふ事はないのであります。然るに今日我が日本の人はどうであります。七十八十になつても本を讀んだり、色々修養をして居る人がありますか何うですか。世の中に遅れない様に世の進歩を妨げないやうにといふところの考が老人の頭の中にあつて、是が即ち青年を教化し、國家を進歩せしむるのである。其の國の元老、其の國の功勞者が早く年を取つて修養を怠り、文明の新知識に缺乏すれば、世の中の進歩を害するは勿論、實に國家の進展に妨げあるものであります。

第三に私は今度の旅行に於て、各地方の情況を見まするに、到る處自治心發達したこと、大いに獨立心が興起したこと、又實業家諸君が自ら事業を企て、自ら事業を開拓するやうな、又夫れに必要な學問をするやうな氣風が大いに出來て來たといふ事は實に欣ぶべき現象であります。殊に信州は非常に個性が發達し、獨立心が發達し、地方觀念が發達して居る。我が村我が學校を完全にする、自分の商業を發達せしむる、自分の知識を明確にし、我が力を伸ばすといふことに餘程熱心になつて居るといふことを知りました。夫れから段々越後に行きまして

も、等しく是を感じたのであります。我が國の教育も今日斯かる現象を呈するに至つたのを、私は實に皆様と共に祝さうとするのであります。けれども唯遺憾に思ひましたのは、まだモウ一つ足りない事がある。是は國民の自覺である。即ち吾人の獨立、權利、自覺といふ此の三つを見出して、教育も政治も宗教も此の方面に向つて力を盡す、壓迫的教育を排除することに努めて、此の人民の自覺を盛んにして、其の中にある所の個性を發達せしめ、獨立心を起して吾人の權利といふものを扶植して往く、是が即ち今日文明に進んだ一の原因であります。けれども今日は彼の十九世紀の半ば頃からして追々世界の文明が行詰つて來たので、政治でも實業でも唯競争だけでは行かないといふ譯になつて來た。爰に於て唯個人主義では往かない、唯自我中心では往かないといふ事が分つて來たのです。そこで總ての宗教、總ての教育政治、何れも國民性即ち己を捨て、己に克つて國家を愛する、人民を愛する、人と共に爲る、人と協同する、世界が一家の如く協同するといふ處に、力を竭して來たのであります。即ち今日國家の文明の全部は殆ど此の協力力の力の反射であると思ひます。唯個人性のみ盛んなれば統一が出來ない。一致協同の力を盛んにし、凡ての事を協同の力を以て進歩せしめなければならぬ。我が貧乏國、我が薄弱なる國民は、互

に我利々々では到底目的を達する事は出來ぬ、如何しても我が國民が互に協同し、己を捨て國家の進歩するやうに盡力するにあらざれば到底國を維持し、實業を發達する事が出來ない。茲に大に眼を覺まさなければならぬといふことを知り、殊に此の修學旅行に依つて感じたのであります。まだ色々申上げたい事が澤山ございますが、唯私は如何に此の年寄りの白髮の青年が諸君の爲に益を受けたかと云ふこと、及び此の行に於て最も等しく私共の缺けて居ると思ふのは精神教育殊に女子教育が、主に缺けて居るといふことを深く吾々の心に銘したのであります。猶此の演說會、講演會の目的に就いては兩君からお話があることと思ひます。私は唯一言最終の會に於て深く諸君に感謝致し、併せて私の感じを申上げた次第であります。

〔女子教育問題〕・長野市に於ける講演 明治四十三年八月

會員諸子の通信に答ふ

私の所に、昨年の暮私が御尋ねした事に就いて、會員諸子から答へられた通信がある。今年の始め私は之を受取るに従つて一々通讀して、種々教育上參考となるべきものを與へられたが、今度其の内容を分類して皆さんに御返事も致し、又教育上

の参考とする爲に出来るだけ纏めて再び熟讀した。

此の通信の内容は昨四十二年を送り、新たに四十三年を迎へんとするに際して、銘々自己に就いて櫻楓會に就いての感想を卒直に書いたもので、どれを讀んでも必ず其處に、何か私の精神を感動させるものがあつた。夫れは何であるか、此の答は誠心を以て書かれてある誠に眞卒なる聲である。眞面目な態度がどれにも現れて居るのである。今大體の傾向を皆さんに御知らせし、猶之に就いて私の思ふ所も申し、あなた方の御考も聞きたいと思ふ。

實は此の返事もつと早くしたいと思つて居たのであつた。然し期日後もボツ／＼通信が来るので、成る可く揃ふのを待つて居つたが、其の中に非常に多忙な學年末となり、又折悪しく私が三週間程病床に就いて、又暑中休暇になつてから間もなく、長野新潟地方へ二回誠にいそがしい旅行をしたので、段々に延引した次第である。未だ全部を分類し終つてないが、今迄に出來た丈けを通信して、余は次ぎに讓る事としたい。延引した事は深く宥恕を乞ふ所である。

私が此の皆さんの通信を讀み、又今度長野、新潟地方の各支部を訪うて大いに感じた事がある。夫れは一言で云へば、蒔いた種は生えて居る。成長の遅いのもあり、又周圍に餘り雜草が

蔓つて居るので生えて居つても遠くからは未だ能く見えないのもあるが、一つ一つ近づいて見ると決して空しく土に埋もれては居ない。夫れ／＼の境遇に於て皆芽を出して居り、芽を出さんとして、大いに努力奮闘して居ると云ふ事を明らかに認める事が出來たのである。之は實に私の無上の歡喜であり希望である。獨り私の喜びではない。國家の爲、婦人の爲に、實に喜びに堪へないのである。

積極的態度と消極的態度

私は最初全體の傾向を二大別して見た。第一は假令困難に遇つて一時失望した事はあつても、再び勇氣を鼓して奮闘して居る積極的態度である。第二は之ではならぬと考へるけれども、非常なる困難に如何しても克つ事が出來ず、自分を辛うじて保つて居る所の消極的態度である。私の再讀した通信の總數九十四通を分類すると、前の積極的態度の回答が八十七通消極的の七通である。

此の九十四は、地方會員から來た通信の全部であつて、此の外に校内會員の回答が六、七十殘つて居る。支部會員の數は全體で凡そ八百人あるから一割餘の回答で、之はどうも少ないが、丁度年末年始の多忙な時であつたから時期も悪かつたであら

う。然しもう一つは書く事を非常に煩はしく思ふ習慣が直らないのではあるまいかと思ふ。本邦人はどうも書く事を大變面倒に思ふが、遠隔の地に住み、之から愈々多忙の生活に入らんとする我々は、通信に依つて交通する習慣を作らなければ、意志の疎通を計り、共に進歩して行く事は出来難いのである。此の點を深く考へて次回からは一人も残らず答へられる様になることを深く希望する次第である。反省したり深く考へたりする事は、怠るまいと思つても、どうも日々の雑務に追はれて段々に忘れ勝ちであるが、斯様な機會があると、之を機として大いに反省し、時に斯う云ふ問題を出して貰ひ度いと云ふ様な希望もあるから、之からは此の通信を活用して、皆さんと時々通信したい考へである。

積極の態度を以て働いて居る人々は、如何なる事をして居るのか、今之を家庭、教育、社會の三方面に分類して見た。

家庭に於ける働き

最も多くの人によつて、最も著しい働きが現れて居るのは家庭の方面である。皆さんの通信の内容を、茲に委しく擧げる事は出来ないが、私の頭腦に深く印象されて居る事實の二、三を例として擧げて見ると、

或主婦は、夫が正しからざる快樂を追ふ様になつた時に、種々心を用ひて家庭に高尚な趣味を加へ、愛と忍耐とを以て夫を諫めた爲に、今日では夫も、亦夫を悪しき方に誘惑した友人迄も喜んで其の家に集り、家族と團欒して高尚なる趣味を樂しむ様になつたと云ふ事である。或人は高潔なる精神を以て夫の不徳を補うた。其の良人は斯う云うて居る「若しも自分が普通の女を妻として居たならば、最早自分は到底生きて居られぬ様になつたであらう。今日あるのは全く妻の賜である」と。滿州へ行つた或人は其の地に於ける日本人の風俗の頹廢を憂へ、其處の御婦人方と協力して家庭の改良、風俗の改良に努めた結果、遂に從來は日々續いて催された無益なる宴會を減じ、又宴會は夜半或は夜を徹して曉方迄も續けると云ふ惡習であつたのが、十時迄には遅くも銘々家庭に歸る様に自然になつたと云ふことである。

又或人の家庭は關係が非常に複雑で、常に暗闘が絶えないと云ふ有様であつたが、誠心と公平なる判断を以て其の間に處し、久しき忍耐を續けた結果、遂に家族の心を和げる事が出来、意志の疎通も出来て、今日では、家族が互に同情を以て人に對する様になり、誠に幸福な家庭となつたといふのである。又家族が大酒家であつたのを非常に苦心して禁酒させた人もあ

る。生家に居つて母を助けて家政を執り、弟妹の教育に熱心に盡して居る人も少くない。或人は前は一家の心配の種であつた不良の少年を全く一變させて善良な少年とし、大いに父母の心を安んずる事が出来たと云ふ事である。或人は卒業後家道が衰運に傾いたが、少しも之に屈せず、失望せる両親や兄を慰め、身を以て雇人を率ゐて非常なる困難と戦ひつゝ、両親を助けて家運の挽回を計つて居る。其の他猶種々の事があるが、茲に一々擧げることとは到底出来ないのである。

教育の方面の働き

教育の方面では學校教育即ち女學校、或は小學校の教師となり、其處に深く責任を感じて居る人が最も多い。始めは無經驗で中々困難も感じたが、信仰を以て親切謙遜な態度を以て障礙と戦ひ、段々に経験を重ねて何かの結果を現し、信用を得るに至つたと云ふ人が多い。或人は多くの人に推されて校長が病氣がちである所から、校長を扶けて其の代理をして居る。又或地方の女學校の寄宿舎は殆ど兵營的であつたが、或人の苦心に依つて、今では全く家庭的になつて居る。

女工教育に従事して居る人も六七人ある。此の人達は女工と共に起居し、同じ食物をとつて、實行を以て女工を率ゐ、實に

荒んで居つた女工の精神を追々變化させて居る。孤兒教育に生涯を捧げて多くの孤兒の母となつて働いて居る人もある。

社會的の働き

社會的方面の働きは他の方面に比すれば稍々後れて居る。之は我が國婦人の境遇上、最も困難であらうと思ふ。然し地方の支部會員は互に連絡し協力して、獨り支部の團結を強固にし、相互の進歩を計るのみでなく、機會があれば進んで其の地の婦人の爲に熱心に盡さうとして居る事は確かである。又先年の大阪支部主催の講演會の如き、又今年は京都支部の主催で料理講習會が開かれ、講演會も開かれたが、諸事非常に好成績を以て終了したと云ふ事であり、目下盛岡支部でも料理の講習會を開いて居る。又岡山支部にも講演會が開かれ、其の地の有志婦人と協力して、これから何かの働きをしようとしてゐる。この外長岡支部其の他の支部に於ても、その地の有志婦人と協力し、或は通信教育會員と協力し、又其の指導の任に當つて、團體としては可成見べき働きを社會的方面にも現して來た様であるが、然し個人としての働きは未だあまり多く現るゝに至らない。然し小規模ではあるが、其の地方に必要な事業を自分で始

めた人もあり、又支部の發達の爲に誠意と忍耐とを以て、隠れたる働きを喜んでして、支部の基礎を作つた人もある。又講義録の購讀者を募集するとか、慈善事業を助けるとか云ふ様な働きをして、表面には現れないが、矢張り社會の爲に働いて居る人は少くないのである。

消極的態度になりし原因

大なる打撃に遇つて、今は消極的態度を執つて居ると云ふ回答が七つあつた。其の原因はどう云ふ事であるかと云ふと、重患に罹つて快癒に向はない爲が四、次ぎに一身の不幸、即ち家の中心であつた父母が相ついで俄に死去した爲とか、又意志に反した結婚をして、非常なる不幸に陥つたと云ふ様な事である。又或人は、其の地方に母校に關する誤解が先人主となつて居たので、實に働く事が困難であつて、爲に消極的になつて居ると云ふ事である。

櫻楓會に對する感想

櫻楓會に對する感想としては、大多數の通信に斯う云ふ意味の事が書いてある。「種々の困難に遇ひ、失望の位置に立つた時にも、自分は櫻楓會員である、自分は母校の名を恥かshめて

はならぬと云ふ事を考へ、大いに責任を感じ、自重して再び勇氣を鼓して困難に當り、遂に克つて來る事が出來た。櫻楓會は我々の力であり、生命である、我々は櫻楓會に依つて大いに進歩を助けられ、種々便宜をも與へられて居る」と。

其の外櫻楓會には未だ宗教的の生命が足らぬから、今後大いに此の點に力を盡して養はねばならぬ。經濟力が大いに不足であるから、經濟上の發展を計る事が急務である。今後益々本部と支部との連絡を計つて、支部の發展に力を注がなければならぬと云ふ事は、多くの人が熱心に考へて居る所である。又准會員の養成に一層力を入れる事が必要であり、正會員の爲に、成る可く櫻楓會通信を度々發行して貰ひ度いと云ふ希望がある。其の外細かい事は種々あるが、大體斯う云ふ様な意味であつた。

私が今迄に分類した九十四の答は、殆ど一々内容が異つて居て、其の大體の傾向を御知らせするにも、到底短い言葉では云ひ現せないものであるが、然し其の千差萬別の中に、多くの共通の點も亦見出されるのである。

多少の例外はあるが、殆ど大部分の人が、信仰上に於て同じ様な經驗を持つて居る事は、大いに注意を惹く事である。即ち卒業後一年間位は、非常に固い信仰を以て盲進する、夫れから

種々の困難に遇ひ、複雑な社會を追々に深く知り、多くの失敗をも重ねて、一時は自己の信仰、實力を疑ひ、社會の暗黒なる方面を多く見て、悲觀に傾く懷疑の時期が来る。然し假令失望しても、久しからずして一層の責任を感じ、七轉八起の反撥力を以て再び奮起し、第三に自覺時代とも云ふべき、調和ある生活が始められるのである。此の時期の長短は人に依り境遇に依つて種々であるが、兎に角多くは此の經驗を経て居る。

然し如何なる時代にあつても、亦誰にも共通して居る所の著しい態度がある。夫れは實に謙遜であり、親切であつて、退歩を最も恐れ、常に刺戟を求め、精神上の養ひを求めて居る事で、之は長所であるが、同時に又短所を見れば、思想を豊富にする力も、亦思想を統一する力も未だ大いに不足して居る。換言すれば讀書力、智力、思考力、統一力、精神力と云ふ様なものを、益々養ふ事が必要であると云ふ事になる。

全體の態度が實に誠實眞卒であつて、誤解を受け、或は失敗をしても誠心は何時かは通ずる、如何なる誤解や非難があつても、最後の勝利は誠心にあると云ふ信仰を以て、能く忍耐奮闘して屈せざるは實に喜ぶべき事である。而してあなた方の多くは、社會から批評的に迎へられ、或は誤つて居る先人觀念を以て扱はれ、大いに始めは困難を感じる處から、黙して只管實行

を以て現すと云ふ傾向になつて居るのである。

卒業後實社會に出で、多くの複雑な事に遇ひ、六ヶ敷き判斷をすべき場合に遭遇し、或は種々の不幸に遇つて、益々教育の恩恵を感じ、修養の必要を認め、母校に對し櫻楓會に對して、益々深い愛校心を持ち、精神的團體の價値を認めると共に、一方には腐敗せる社會の暗黒面を憂ひ、思想の相違等に依り壓迫を受ける事も甚だしきを覺えると云ふ事があるが、我々は苦しまなければならぬ。我々は進んで此の苦しみを受けなければならぬ。斯う云ふ苦しみを持つ間は進歩があり、精神があるのである。經濟力の不足も亦、あなた方の進歩を妨げて居る一つの原因となつて居る。婦人の發展と經濟力と云ふ事は大いに注意すべき問題であらうと思ふ。此の共通の長所と短所に就いて、又家庭、教育、社會各方面に於けるあなた方の働きに就いて、消極的態度の原因に就いて、又櫻楓會に就いて、茲に種々の問題が起つて居る。然し其の研究と解決とは全部の分類を終つた後結論として申したいと思ふ。

〔櫻楓會通信〕第三十二號 明治四十三年九月

新年を迎ふる心の用意

今年もはや、剩す所二週間計りとなりました。年末に際し、今更に時の歩みの早さを驚く計りである。我々の二十年來の主張が遂に實現されて、本校の創立を見、東西より非常の熱心を以て集まられた諸子を校庭のテントに迎へて開校の式を擧げた當時の光景、又我々が精神を盡して育てた長女を世に出さんとして、講堂に告別の式を擧げた時の事なども、私には猶昨日の如くに見えるのでありますが、既に今年は第七回卒業生を出し創立以來十年の経験を重ねたのであります。而して更に二週間の後には、第一期の境界線を超えて、第二期たるべき次の十年に入らんとして居るのであります。

今年は何なる時なりしか

今年是世界の大勢から云つても、又我が國の事情から見て、一般にやゝ沈滞保守の傾向に傾き、消極の態度であつた様であります。歐洲の經濟界は、前年來の打撃から未だ全く癒るに至らず、我が國も亦世界の市場と關係ある上は、其の餘勢を蒙らざるを得ない、そこで我が國に於ても、保守の思想が再び幾分か勢力を得て來た様であります。

今年の出來事の中では、我が同盟國君主の崩御、或は我が國の殆ど中部を浸した未曾有の出水等の災害もあり、一方には日

英博覽會の開設、日韓併合の斷行等も事實となつて、我々の責任は一層重きを加へ、誠に多事なる年でありました。

我が櫻楓會並びに本校はどうであつたかと云ふと、矢張り今年は中々多事な過渡期でありました。我々が今年力を集注したのは如何なる方面であつたかと云ふと、第一紀の終りに當つて今迄の経験を整理し、充分に各自が修養反省に努めて、現状を明らかにし、靜かに力を養ふ事にあつた。即ち今年の必要は、どちらかと云へば益々積極に事を起すよりも、寧ろ今迄に創められてあつたものを完成し、個人の成長發達を計つて益々團體の基礎を、強固にすると云ふ方面にあつたのであります。そこで自然凡ての方針が之迄に比べると、少しく個人的に傾き、個人の生長に大いに重きを置いたのであります。

此の方針を以て私は皆さんから出來るだけ經驗を集め、現状を知らせて貰ひ、又地方の支部をも成るべく訪問して直接會員の近狀を見、又櫻楓會本部に居る人々も成るべく地方へも出て、直接會員の現狀を學ぶ事にとめた様でありました。

そこで其の結果、我々は如何なるものを發見したかと云ふと、勿論不完全な部分も澤山にあるが、又思つたよりも實力が出來た方面もあり、地方にあつても矢張り最も本氣に考へて、生活して居ると云ふ様な事實を見て、誠に喜びに堪へなかつた

事も、少くはなかつたのである。蒔かれた種は、遅くとも段々に芽を出し成長して居る。我々は親が、其の愛する子供の成長を願ふ如き熱心を以て、あなた方の成長を待ち望んで居る所から、時には大いに心配もしたのであるが、然し個人々々の境遇に近づいて見、深く其の精神を知ると、多くは種々困難な事情の中にあつても少しも失望せず、益々勇氣を出して生涯を期して目的を達せんとして居るのであります。

又成長が中々思ふ様に行かないと云ふ事を申しましたが、或部分に於ては表面に表れないが、中々著しき効果を擧げ始めた所もある。斯う云ふ事は個人に關する事であるからこゝに一々委しく述べる事は出来ないが、各自の實力も決して失望すべきではない。私は今年反省整理に努めた事により、將來改善すべき必要のある所を多く見出す事が出来、同時に我々の今迄の方針が、大綱に於ては決して誤つて居らなかつた事を確信する事が出来、又婦人の能力を證明し得る多くの有力な事實を見出すを得て、大いに喜んで居るのであります。

現状より一步宛進まん

然し我々は何時迄も同じ所に安んじて居るべきではない。必要があるならば、或時期には深く個人的に傾く事も悪い事はな

い、隨に必要である。然し此の態度を久しく續けるならば、我々はもう一つ大いなる力を得て目的を實現する事が出来ないのみならず、個人の修養、個人の進歩發達も之では本當に出来なくなるのであります。

昔の考では、修養するとか學問をするとか、信仰を得るとか云ふ事は、全く個人的のもので、個人の努力に依つて出来るものであるとせられて居りました。そこで信仰を求めるのには深く山へ這入つて瞑想するとか、修養と云へば自ら反省し、或は讀書して自分を神聖に保つて居る事に重きを置いたのである。殊に婦人は家庭の奥に深く隠れて、成るべく人との交通、社會との交通を避け、日夜孜々として家庭の雜務を執り、子女を養育して、家族の衣食に差支へを生ぜしめなければ以て足れりとしたのであります。而して其の結果は如何であつたかと云ふと、婦人は只自分で考へた事、自分でした事の外は餘り知らない。見聞は狭く、従つて興味も家族の事、衣食の事より外出ない。知識も淺く感情的、主觀的になつて、心狭く判斷を誤り、進歩向上の力を失つて、婦人自身が不愉快、不幸なる生活を送るのみならず、不知不識の間に夫の頭腦との間に非常なる懸隔を生じて、互に同情を失ひ、又子女も長じて高き教育を受けるに至れば、母として其の教導の任を完うする事も困難になり、

遂に非常なる一家の不幸を見る事が稀でなかつたのであります。

所が今日の心理學では、我々の精神、知識、我々の信仰も亦決して自分一人の力で出来るものではない。如何なる天才を受けて生れた人と雖も、若し社會との交通を全く絶つて孤立して居るならば、決して天才を發揮する事は出来ないのみならず、低能兒と少しも選ぶ所はないと云ふ事が解り、其の結果人と協同し、社會と交通すると云ふ事は、人間の進歩に非常なる關係のあるものである事を認めらるゝに至りました。

之は獨り個人の問題計りでなく、古今の歴史を通じ、各國興亡の跡を尋ねても、同じ原理を見出す事が出来る。嘗ては東方文明の中心であり、或は強國として認められて居つた印度、支那、朝鮮の如き國家は何故に世界の文明に後れ、獨立を危くするに至つたかと云ふと、一言で云へば廣く世界と交通する途を開かずして久しく孤立して居り、國民も亦目前の我が利を捉ふるにのみ汲々として、國家社會の爲に一致協力して其の發展を計ると云ふ精神が殆ど失はれたからであります。

之に反して英、米、獨の如き非常なる勢を以て發展して居る國家は如何かと云ふと、國民は一方に獨立自尊の念が強いと共に、一方には一致協同の精神が盛んで、多くの資本を合し、多

くの力を集め大仕掛けな交通機關を用ひ、國家的、世界的頭腦を以て事業を經營して居ります。

つまり今日迄文明の發達、人間の進歩は如何なる所に現れたかと云ふと、協同の精神旺んにして、精神上にも、物質上にも交通の盛んな所にあつたのであります。近頃獨乙が新進の勢を以て、世界の交通と大關係ある海上の支配權を掌握せんと頻りに巨艦を建造し、運河を開鑿して、英國と競争して居るのも、亦各國が鐵道の敷設に多大の費用を投じ、飛行機の發明に多くの犠牲を拂つて惜しまないのも、つまり其の意味は一つであります。

近世に於ける婦人の發達と其の原動力

歐米に於ける婦人の發達、婦人の覺醒は、十九世紀の大いなる産物の一つであります。一方から云ふと、之は十九世紀に於ける物質的文明の影響で、夫れ迄婦人は家庭内衣食住の雜務に追はれて、殆ど他を顧みる暇がなかつたのであるが、科學の進歩に従ひ種々便利なる器械器具が發明され、分業の發達につれ、婦人が家庭内で個々にして居つた事が協同的、分業的に行はれる様になつて、婦人の家庭内の仕事を減じ、一方には又小規模で行はれて居つた所の婦人の家庭工業は其の爲に仕事を奪

はるゝに至りました。例へば近頃迄は婦人が家庭に於て、下着丈は各自に作つて居つたのでありますが、近頃六億の大資本を以て大仕掛けに下着を製作し、廉價に供給する會社が出来た爲、もはや下着も各自に作る必要がなくなつたと云ふ事であります。

一方には女子教育の發達に伴ひ、婦人の知識、思想に大いなる進歩を來し、一方には今申しました様に昔に比べると婦人が家庭生活の爲に勞力を費す事が餘程減ぜられた結果、自然婦人も亦協同して、國家的社會的の生活をも一方に開く様になりました。

近頃英國に起れる婦人選舉權獲得の運動は、婦人問題に注意すると否とに拘らず、何人も注意せざるを得ぬ現象であります。此の運動に就いては、示威運動とか入獄とか、暴舉のみが、先づ傳へられて居る様であるが、之は方法極端なる爲却つて反動を起し其の精神を誤解さるゝに至る爲、此の説の主張者と雖も之に就いては迷惑を感じて居ると云ふ事であります。此の運動が今日の如く眞面目に識者の研究問題となり、又追々に輿論を動かして、今日では速に目的が達せらるるか、或は十幾年を要すべきかは未知數であるが、もはや只時の問題であつて、兎に角遂には目的が達せられるであらうと一般に考へら

るゝ様になりましたのは、何の力に依るか云ふと、此の運動が只婦人の權利を主張すると云ふ如き事でなく、婦人の愛國心から生じた熱心なる團體的の運動である爲であります。婦人が直接政治上に働く事が出来ない爲に、女工の保護とか、教育の改良、或は婦人の職業問題等に就き、正當ならざる判断を下さるゝ事が少からず、爲に婦人は素より國家も非常なる損失をして居る。之は國家の爲、婦人の爲に如何しても、此の缺點を補はなければならぬと感じて、二萬餘の婦人が堅き團結を作り、一つの目的の爲に犠牲的の熱心を以て、輿論の反對にも屈せず、困難ある毎に益々必要を深く感じて一致協力し、世人の良心に訴へて其の目的を達せんとして居るので、中には身分あり思慮ある婦人で、社會から深き尊敬を受けて居る人も少くないと云ふ事であります。

或人は英國婦人に斯かる運動の起つたのを、女子高等教育の結果なりとし、之を以て我が國の女子高等教育の發達を恐れて居ると云ふことでありますが、之は彼我の國狀と、女子高等教育の實際を明らかにせざるより生じた甚だしき誤解であります。私は英國婦人が斯かる運動をなす事の可否に就いては今論じて居る暇がないが、我が國の婦人の境遇は英國とは大いに趣きを異にして、家庭に、教育に、社會に、選舉權がなくなつて充

分に結果を現し得る多くの仕事が無始と少しも手をつけられないで其のまゝ、婦人の働きを待つて居ると云ふ有様であります。

或米國人は、英國婦人と、米國婦人との働きに就いて論じ、婦人の力は何にあるかと云ふ事を説いて居る。曰く米國婦人は選舉權なきも、多くの小なる仕事も亦種々の大事業もした、而して夫れは皆好結果を擧げて居る。教育事業に、都市の改良、衣食住の改良、救貧慈善事業に、公衆衛生に、婦人の團體がなしたる所のものは慥に米國人の生活に大いなる善き影響を與へて居る。婦人團體が國家の發達に大いに與つて力ある働きをして居る事は、現にタフト氏の充分に認めて居る所で、ルーズベルト氏も亦認めざるを得なかつた所であつた。間接ではあるが、米國婦人の政治上に及ぼす勢力は決して輕視する事は出来ない。而して婦人の力が個人的にも亦國家的社會的にも、斯く大いに發達したのは何が原因であるかと云ふと、其の原動力となつたのは婦人が結合する力、協同の働きを始めた事にあると云つて居ります。

最近二十五五年間に於ける、米國婦人團體の發達は實に著しきもので、或團體は八十萬の婦人の力の一つにして着々働きを著し、又萬國平和協會の如き、婦人の世界的團結も組織されて、

將來世界の文明に大いに貢獻せん事を期して居ります。

櫻楓會員にのぞむ

あなた方は婦人が一方に社會的、協同的の生活を開く事が婦人の發達の爲又國家社會の爲に如何に大切であるかを早く自覺し、自ら立つて櫻楓會を組織し、殆ど宗教的の熱心と誠實とを以て會の成長發達を計つて來たのであります。そこで私が今度あなた方に深く望む所は、益々此の一致協同の精神を深くし、且之を廣く及ぼして婦人の進歩向上を計り、家庭に於ける婦人の任務を完うするのみならず、婦人も亦國家社會の爲に力を協せて何等かの貢獻をなし得るに至る事であります。

最近十年間に於ける我が國女子教育の發達は非常なもので、十年前には全國高等女學校生徒の數は二萬を出なかつたが、今日では十八萬に達し十年間に殆ど十倍の激増を示して居ります。中等教育が斯く非常な勢を以て進歩したので、其の結果婦人の生活にどれ程の進歩が現れたかと云ふとそれは甚だ疑問であつた。教育を受けた婦人も學校を出て家庭に這入ると餘り今迄とは違はない様になつて仕舞つて、家庭の改良衣食住の研究と云ふ様な事でも、矢張り男子の力に待たなければならぬと云ふ有様で、どうももう一つ婦人の力が現れ、生涯進んで行く事

が出来ないのは何故であるかと云ふと、之は全く婦人が自己と云ふものに就いて深く考へ、根本から人格を築いて家庭に對し國家社會に對して、眞に婦人の使命を感じるに至らなかつた爲に、従つて交通機關の必要も深く感ぜず一致協力の熱心も起らなかつた。そこで一度個々に別れて家庭に這入ると忽ち孤立の狀態となつて國家社會の發達に力を捧げる事は勿論、自らが社會に後れずに進歩する事すら中々困難になるのであります。

若しも今後婦人の間に強固なる結合の力が現れ、精神上に於ては讀書、研究、思考等に依り交通を盛んに致し、家庭と家庭との間に連絡が出来ましたならば、家庭生活を改良し、第二の國民を教育する上にも、或は社會の惡風を矯正する上にも非常なる強き力が現れるのであります。

物質の方面に於ては、婦人は消費の九分迄を司るものであり、又我が國重要輸出品の六割六分は婦人の手に依つて産出せられて居るのであります。そこで今後婦人の間に消費組合、或は産業組合の如き、經濟上の協同行はるゝに至つたならば、婦人の經濟力が増進する許りでなく家庭も、國家も、之に依つて大いなる利益を受くる事は慥であります。

結合の力は同情なり

そこで今後婦人の發達を望むならば、婦人が精神上にも物質上にも適當なる交通の機關を持ち、大いなる結合を作つて協同の働きをする事が最も大切であるが、然し此の結合の力は何であるかどうしたならば協同の働きが出来るかと云ふ事は深く考へなければならぬ問題であります。

人間と人間とを結合させる力は何であるか、利益の爲に、或は國家に非常なる事があつて一時の結合をなす事は容易であるが、輿論の反對にも種々の困難にも打克つて、其の目的を達する永久の生命ある結合を作る事は、同情の働きの依らざれば決して目的を達する事は出来ぬものであります。同情は人間の精神と精神とを結合させる力である。根本から人の力の一つにするものは愛であり同情である。精神上に於ても物質上に於ても、我々が交通の道を開き、協同の實を擧げる事は、全く此の力に依らなければならぬ。假令物質的の事をなすにも、此の人類を愛し、惡を憎み、善を愛する誠意が働かないならば、人と人との間には忽ち名利の争が起り、久しく協同の働きをなし、大いなる結果を擧げる事は到底望む事は出来ないものであります。そこで今日教育と云ふ事は此の精神を益々深くする事であり、宗教の眞體も亦此の精神を以て人と人との關係を完全にする事に外ならぬのであります。

今や我が國は内は思想の混亂に悩み、外は經濟の壓迫に苦しんで居り、加ふるに今年は朝鮮を併合して、其の誘導開發に一層力を致さなければならぬ位置に立つて居る。此の國事多端なる時に際して、婦人も亦國民の一半なる事を自覺するならば、安逸を棄て虚飾を棄て、共に力を協せ、國難の半ばを擔うて立つの勇氣と決心がなければならぬ。

茲に我々は年末に當つて根本から自己を反省し、舊年と共に過去の失敗悔恨を送り、櫻楓會が生るゝ時に大いに現れた此の協同の精神、結合の力を益々旺んならしめ、我々の交通機關を一層發達せしむる決心と希望を以て新年を迎へて、來年は一層個人と個人と、家庭と家庭と、又婦人と國家社會との交通を精神上からも、物質上からも開く事に力を注いで自己を進め、櫻楓會の成長を計つて、之を廣く他に及ぼさるゝ事を深く希望して已まぬのであります。

（「櫻楓會通信」第三十四號）明治四十三年十二月